

## 第2章 高齢者を取り巻く状況

### 1 人口等の動向

#### (1) 人口の推移

本市の総人口は、平成29年4月1日現在159,326人となっており、最近5年間ではほぼ横ばいとなっています。

少子高齢化の進展に伴い、本市においても65歳以上の高齢者は増加傾向にあり、市の高齢化率は、国(27.6%：平成29年総務省「人口推計」)や茨城県(28.1%：平成29年茨城県統計課「常住人口調査」)に比べると低いものの、この3年間で平成26年の22.4%から平成29年の24.5%と2.1ポイント上昇しています。また、75歳以上の高齢者人口の増加も顕著で、平成26年から3年間で2,639人増えています。

(表2-1) 人口の推移

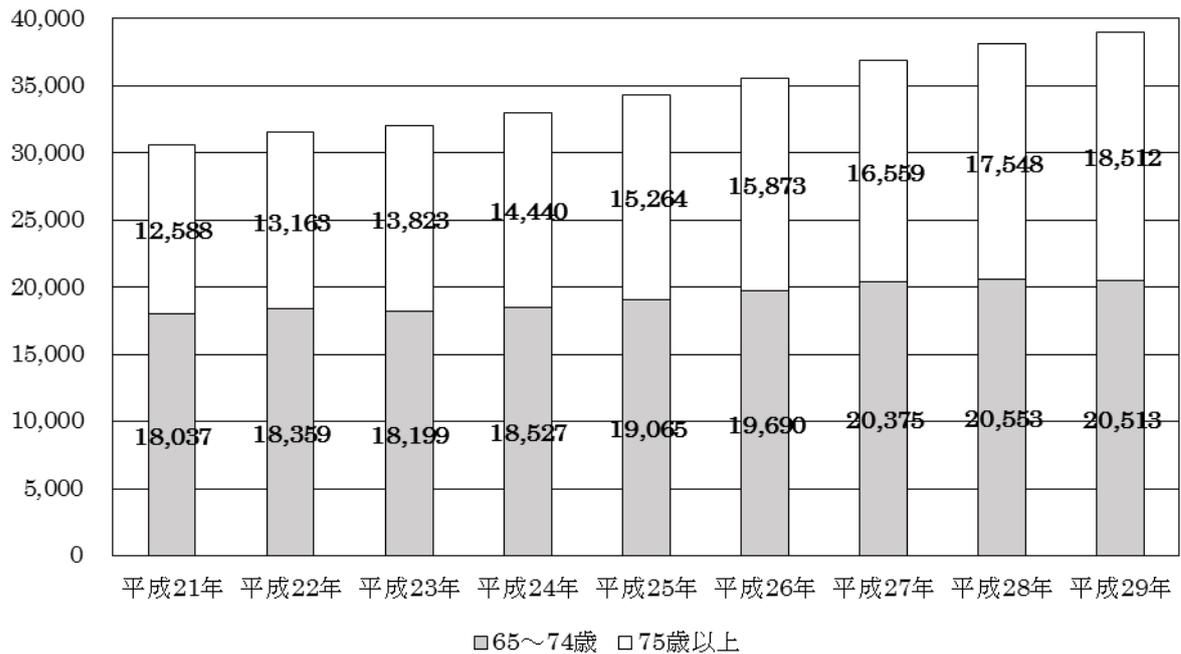
区 分	総人口	65歳以上	65歳以上75歳未満	75歳以上
平成7年	147,146人	16,421人(11.2%)	10,133人(6.9%)	6,288人(4.3%)
平成12年	152,534人	20,192人(13.2%)	12,156人(8.0%)	8,036人(5.3%)
平成15年	153,783人	23,287人(15.1%)	13,863人(9.0%)	9,424人(6.1%)
平成16年	154,350人	24,304人(15.7%)	14,407人(9.3%)	9,897人(6.4%)
平成21年	157,618人	30,625人(19.4%)	18,037人(11.4%)	12,588人(8.0%)
平成22年	158,393人	31,522人(19.9%)	18,359人(11.6%)	13,163人(8.3%)
平成23年	158,414人	32,022人(20.2%)	18,199人(11.5%)	13,823人(8.7%)
平成24年	158,224人	32,967人(20.8%)	18,527人(11.7%)	14,440人(9.1%)
平成25年	159,576人	34,329人(21.5%)	19,065人(11.9%)	15,264人(9.6%)
平成26年	159,053人	35,563人(22.4%)	19,690人(12.4%)	15,873人(10.0%)
平成27年	159,212人	36,934人(23.2%)	20,375人(12.8%)	16,559人(10.4%)
平成28年	159,188人	38,101人(23.9%)	20,553人(12.9%)	17,548人(11.0%)
平成29年	159,326人	39,025人(24.5%)	20,513人(12.9%)	18,512人(11.6%)

※ 各年4月1日現在の住民基本台帳の人口。

※ 「65歳以上75歳未満人口」及び「75歳以上人口」は、「65歳以上人口」の内数。

(グラフ 2-1)

高齢者の人口推移 (単位：人)



※ 各年4月1日現在の住民基本台帳の人口

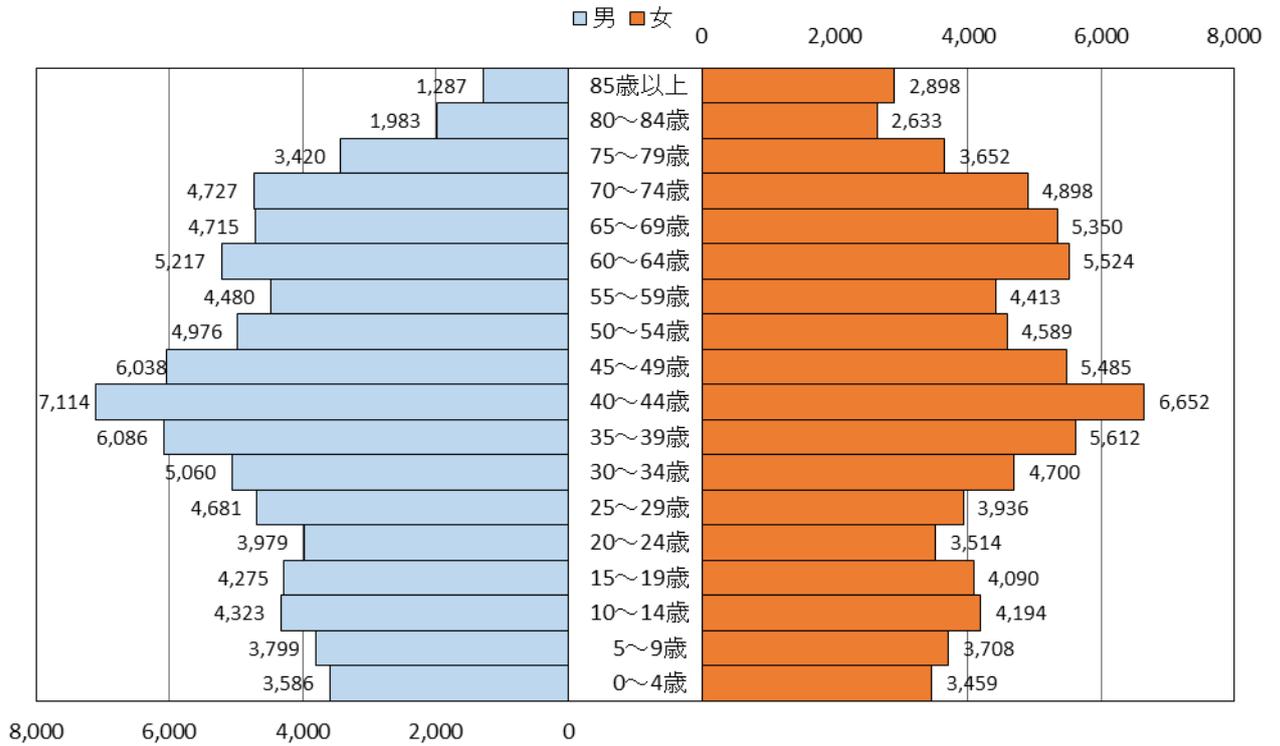
(表 2-2)

平成29年4月1日現在の年齢別人口 (単位：人)

区分	男	女	計 (A)	総人口に占める割合(%)
65歳～69歳	5,372	6,081	11,453	(A)/(B) 7.2
70歳～74歳	4,338	4,722	9,060	5.7
75歳～79歳	3,932	4,222	8,154	5.1
80歳～84歳	2,432	3,024	5,456	3.4
85歳～89歳	1,141	1,921	3,062	1.9
90歳以上	484	1,356	1,840	1.2
計	17,699	21,326	39,025	24.5
総人口	80,134	79,192	(B) 159,326	—

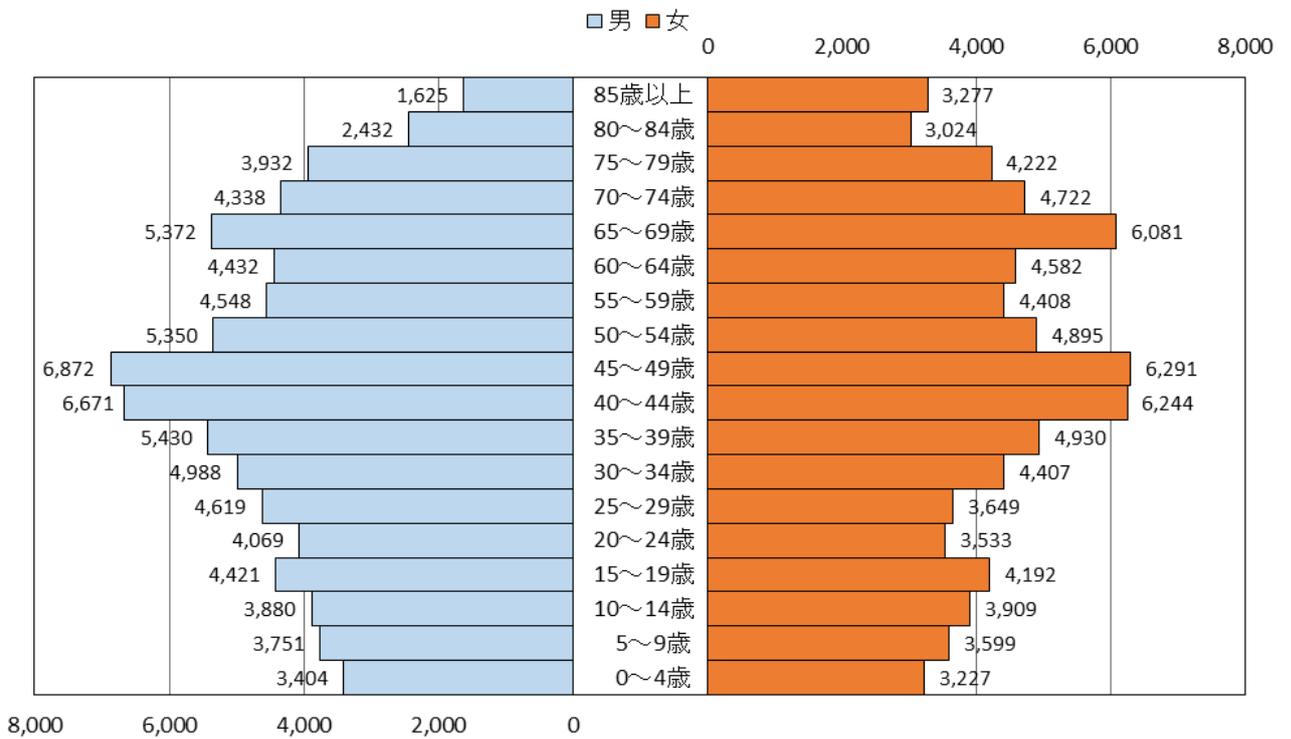
(グラフ 2-2)

平成 26 年度人口構成 (単位：人)



(グラフ 2-3)

平成 29 年度人口構成 (単位：人)



## (2) 介護保険被保険者数の推計

本市の介護保険被保険者数の推計では、平成27年と平成32年(2020年)を比較しますと、第2号被保険者(40歳～64歳)数は、1.4ポイント増加し、第1号被保険者(65歳以上)数は10.3ポイント、うち65歳～74歳では2.0ポイント減であるのに対し、75歳以上は25.1ポイント増加するものと見込んでいます。

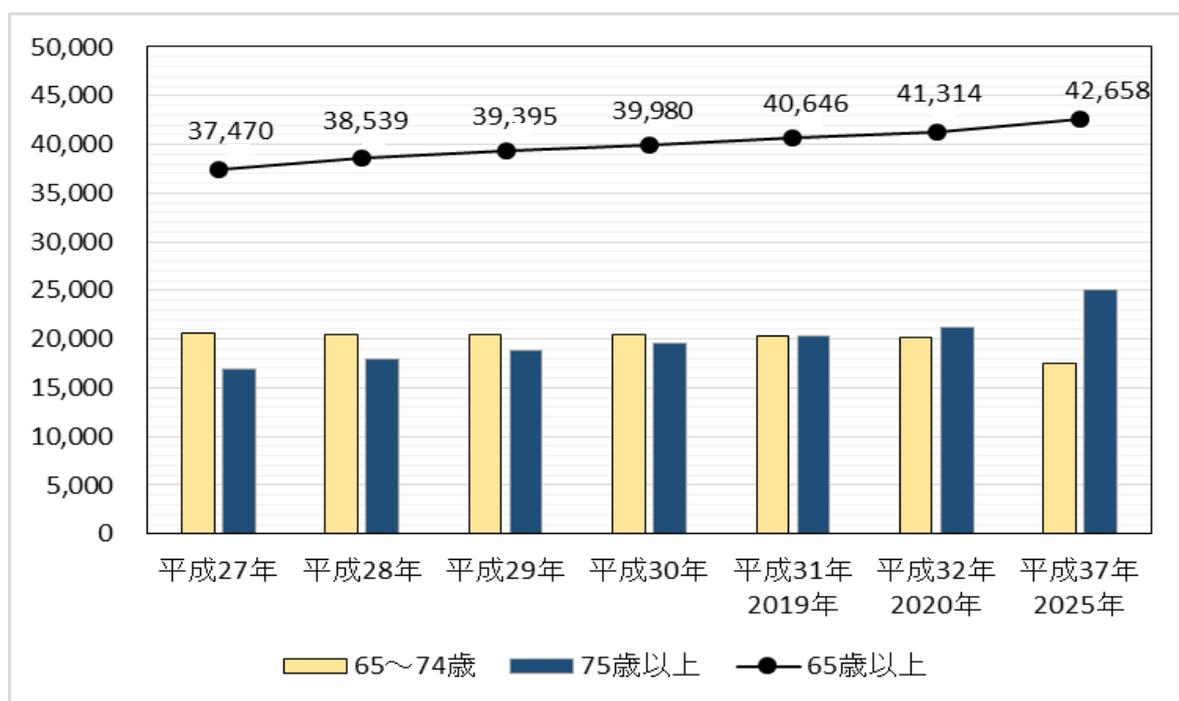
また、平成31年(2019年)には75歳以上の被保険者数が65～74歳の被保険者数を上回る逆転現象となり、75歳以上の被保険者数は今後2025年に向けて増加が続いていくものと予測しています。

(表2-3) 市の介護保険被保険者数(65歳以上)の推移と推計(単位:人)

区分	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年 2019年	平成32年 2020年	平成37年 2025年	
40歳以上合計	91,954	92,979	93,907	95,121	95,849	96,579	97,550	
内訳	第2号被保険者 40～64歳	54,484	54,440	54,512	55,141	55,203	55,265	54,892
	第1号被保険者 65歳以上合計	37,470	38,539	39,395	39,980	40,646	41,314	42,658
	65～74歳	20,554	20,518	20,520	20,430	20,287	20,145	17,573
	75歳以上	16,916	18,021	18,875	19,550	20,359	21,169	25,085

※ 各年10月1日現在の住民基本台帳の人口。平成30年以降は、国立社会保障・人口問題研究所の数値を参考とした将来推計。

(グラフ2-4) 市の介護保険被保険者数(65歳以上)の推移と推計(単位:人)



## 2 高齢者の状況

### (1) 高齢者の世帯と住居状況

本市の高齢者のいる世帯数は増加傾向にあり、平成27年国勢調査では23,927世帯で、平成22年と比較して3,045世帯（世帯構成比：4.5ポイント）、増加しています。その中でもひとり暮らし世帯の増加が顕著となっています。

高齢者のいる世帯の住居の状況は、本市においては持ち家率が88.6%と高いものの、前回調査よりわずかながら減少しています。

(表2-4) 世帯状況の推移（単位：世帯）

区 分		平成12年		平成17年		平成22年		平成27年	
		世帯数	構成比	世帯数	構成比	世帯数	構成比	世帯数	構成比
総世帯数		53,476	100.0%	56,319	100.0%	60,268	100.0%	61,104	100.0%
高齢者のいる世帯数計		14,112	26.4%	17,417	30.9%	20,882	34.6%	23,927	39.1%
内 訳	ひとり暮らし世帯数	2,038	3.8%	2,813	5.0%	3,739	6.2%	4,997	8.2%
	夫婦のみ世帯数	3,871	7.2%	5,401	9.6%	6,830	11.3%	7,786	12.7%
	その他の世帯数	8,203	15.4%	9,203	16.3%	10,313	17.1%	11,144	18.2%

資料：国勢調査

(表2-5) 高齢者のいる世帯の住居状況の推移（単位：世帯）

区 分		平成12年		平成17年		平成22年		平成27年	
		世帯数	構成比	世帯数	構成比	世帯数	構成比	世帯数	構成比
高齢者のいる世帯数計		14,112	100.0%	17,417	100.0%	20,882	100.0%	23,927	100.0%
持ち家		12,770	90.5%	15,742	90.4%	18,547	88.8%	21,205	88.6%
借家		1,342	9.5%	1,675	9.6%	2,335	11.2%	2,722	11.4%
内 訳	公営・公団・公社	414	2.9%	585	3.4%	732	3.5%	907	3.8%
	民 営	756	5.4%	958	5.5%	1,318	6.3%	1,615	6.7%
	給与住宅（社宅）	53	0.4%	25	0.1%	35	0.2%	28	0.1%
	間 借 り	101	0.7%	97	0.6%	239	1.1%	116	0.5%
	そ の 他	18	0.1%	10	0.1%	11	0.1%	56	0.3%

資料：国勢調査

## (2) 高齢者の就労状況

本市の高齢者の就労状況をみると平成27年の国勢調査結果では、65歳以上の高齢者のうち就労している方の割合は20.4%であり、ここ15年間で著しい増減はないものの、高齢者人口の増加にともない、就労している高齢者の数は、確実に増加しています。

(表 2-6) 就労状況 (単位：人)

区 分	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
総人口	146,750	151,673	153,639	157,060	155,689
高齢者人口(A)	16,543	20,326	25,739	31,744	37,127
15歳以上労働力人口	75,639	75,888	73,067	78,032	78,027
65歳以上労働力人口(B)	3,928	4,250	5,164	5,999	7,562
高齢者就業率(B)／(A)	23.7%	20.9%	20.1%	18.9%	20.4%

資料：国勢調査

### 3 要介護者等の現状と将来推計

#### 【現状及び将来推計】

要介護・要支援の認定者数は年々増加しており、平成29年9月末には6,031人となっています。将来推計として、認定率は横ばい傾向ながら、認定者数はゆるやかに上昇し、団塊の世代が75歳以上となる平成37年度（2025年度）には7,554人（認定率17.7%）に達するものと見込まれます。

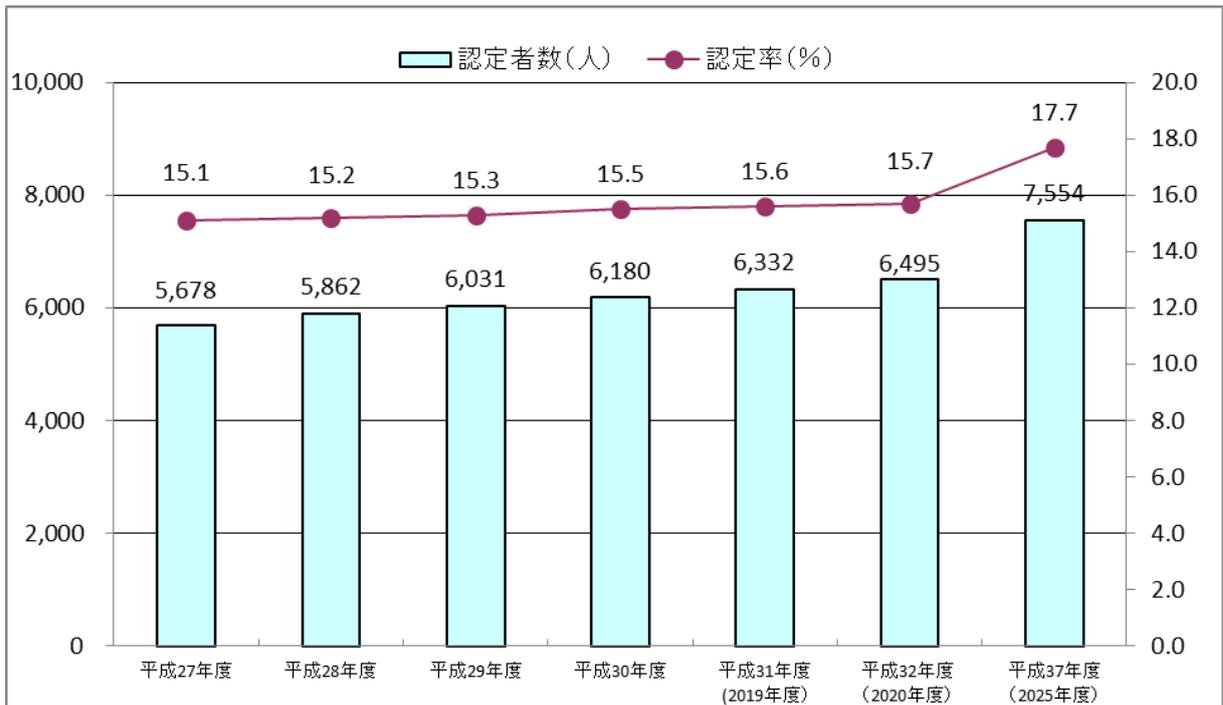
(表 2-7) 要介護度別認定者数の推移

区分	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度 2019年度	平成32年度 2020年度	平成37年度 2025年度
要支援1	484	520	591	662	743	829	860
要支援2	912	924	987	1,057	1,128	1,203	1,555
要介護1	1,046	1,137	1,213	1,290	1,371	1,451	1,740
要介護2	1,184	1,220	1,197	1,163	1,129	1,093	1,286
要介護3	897	918	865	804	728	640	772
要介護4	720	688	679	667	650	640	723
要介護5	435	455	499	537	583	639	618
合計	5,678	5,862	6,031	6,180	6,332	6,495	7,554

※ 平成29年度までは10月1日現在の実績値。

平成30年度以降は地域包括ケア「見える化」システムによる推計値。

(グラフ 2-5) 要介護認定者数・認定率



## 4 日常生活圏域の設定

### (1) 基本的な考え方

日常生活圏域については、地理的条件、人口、住民の生活形態、地域づくり活動の単位などを総合的に勘案して設定しています。

要介護状態になっても、住み慣れた家庭や地域で生活続けることができるよう、高齢者の生活を支えていくため、市域または日常生活圏域ごとに地域に密着したサービスを提供していきます。

### (2) 本市における日常生活圏域の設定

本市では、中学校区を単位として、コミュニティセンターが整備されるとともに、地域住民のまちづくりやコミュニティ活動が行われ、また、コミュニティ組織や民生委員児童委員協議会も概ね中学校区を単位としてきたところであり、本市における日常生活圏域の設定についても、中学校区を単位とします。

ただし、平磯中学校区と阿字ヶ浦中学校区は、他の中学校区と比較して小規模であることから、平磯中学校区と阿字ヶ浦中学校区を1つの日常生活圏域とします。

### (3) 本市における日常生活圏域ごとの特徴

#### ① 勝田第一中学校区域

本市の中心部にあたり、常磐線勝田駅の東側を商店街が縦横に走り、その中に大型店舗が立地しています。

近年、石川運動ひろば周辺を中心にマンションの建設が相次いでいるほか、勝田駅東口の再開発事業が完了し、市民ギャラリーや広場が設置されています。

区域の北東部には昭和40～50年代に造成された住宅団地があり、区域の南部は農業的土地利用が比較的多くなっています。

#### ② 勝田第二中学校区域

常磐線勝田駅の西側に位置し、南北に通る国道6号線をはさんだ地域で、国道の東側の地域には工業系の大企業が立地しています。

国道の西側の地域には昭和40～50年代に造成された住宅団地を始め、一般の分譲住宅が多く、区域南部の那珂川周辺の肥沃な土地は、優良な水田地帯となっています。

#### ③ 勝田第三中学校区域

本市の臨海部に位置し、茨城港常陸那珂港区や国営ひたち海浜公園、常陸那珂工業団地などからなる「ひたちなか地区」と市街化調整区域における農業的土地利用が大半を占めています。

県道馬渡瓜連線西側の市街化区域では、勝田第2工業団地を取り巻くように昭和40～50年代に造成された住宅団地が点在するとともに、土地区画整理事業が進められています。

#### ④ 佐野中学校区域

本市の北部に位置し，常磐線佐和駅西側を中心に商店街を形成しています。市街化区域においては，佐和駅を中心に土地区画整理事業が進められています。

市街化調整区域は，畑地と樹林地となっており，農業的土地利用が行われている地域ですが，北部では大規模な住宅団地の開発が行われ，多くの住宅が整備されています。

#### ⑤ 大島中学校区域

常磐線勝田駅を起点とする昭和通り線の北側に位置し，土地区画整理事業による都市基盤の整備と中心市街地や昭和通り線沿線への都市機能の集積に努めている地域です。

#### ⑥ 田彦中学校区域

常磐線勝田駅と佐和駅間の西側に位置し，東西に国道6号線をはさんだ地域で，国道より東側には勝田第1工業団地に工業系の企業が立地し，その周辺は住宅地となっています。

#### ⑦ 那珂湊中学校区域

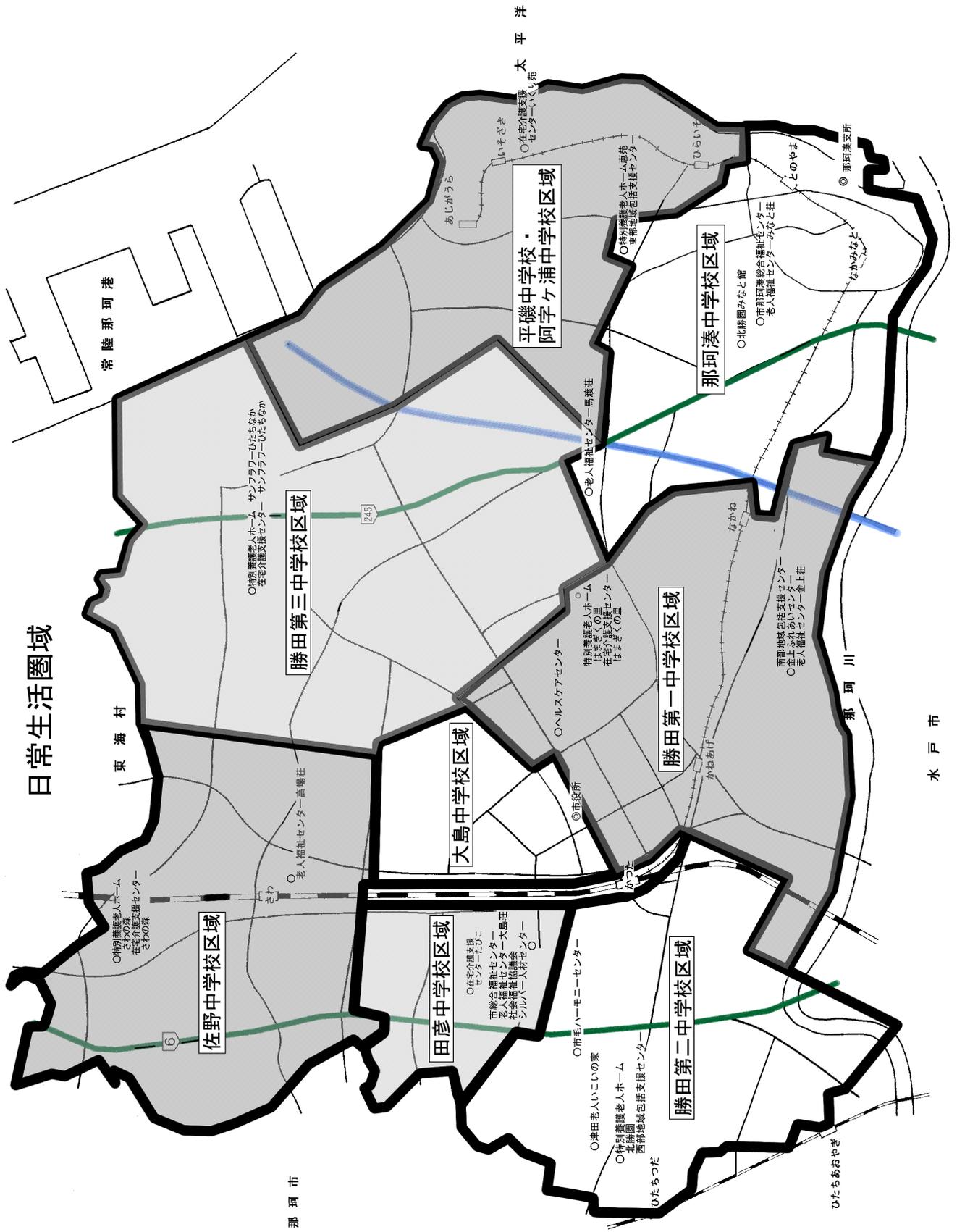
東は太平洋，南は那珂川に面し，旧那珂湊市域における中心市街地を形成しています。

古くから人口や産業が集積しており，那珂湊漁港を中心に水産物量販店が集積しているエリアです。国道245号沿いで進められた土地区画整理事業が完了し，商業施設や住宅が建設されています。

#### ⑧ 平磯中学校・阿字ヶ浦中学校区域

本市の臨海部に位置し，茨城港常陸那珂港区や国営ひたち海浜公園などの大規模開発が進められている「ひたちなか地区」に隣接し，海の観光やレクリエーションの拠点と市街化調整区域における農業的土地利用が大半を占めています。

# 日常生活圏域



#### (4) 日常生活圏域ごとの概況

(表 2-8)

区 分	面積 (K m <sup>2</sup> )	高齢者人口 (人)	要支援 1~2 (人)	要介護 1~2 (人)	要介護 3~5 (人)	認定率 (%)
勝田第一中学校区域	約 16	7,139	292	395	353	14.6
勝田第二中学校区域	約 12	6,277	260	411	317	15.7
勝田第三中学校区域	約 20	4,347	143	217	217	13.3
佐野中学校区域	約 13	5,240	186	297	256	14.1
大島中学校区域	約 9	4,097	164	230	212	14.8
田彦中学校区域	約 5	3,232	105	181	140	13.2
那珂湊中学校区域	約 12	5,884	298	451	337	18.5
平磯中学校・阿字ヶ浦 中学校区域	約 12	3,020	123	224	201	18.1
計	約 99	39,236	1,571	2,406	2,033	15.3

※ 平成 29 年 9 月末現在。

## (5) 介護サービス基盤整備の状況

### ①概要

平成29年度におけるひたちなか市の介護サービス基盤整備の状況は、施設サービスとしては、広域型の特別養護老人ホームが7施設(410床)、地域密着型の特別養護老人ホームが4施設(84床)、老人保健施設が6施設(519床)などとなっています。

その他に、広域型の特定施設(介護付き有料老人ホーム)が3事業所(定数101名)、グループホームが15事業所(定数279名)となっています。

### ②日常生活圏域別の整備状況

ア 介護施設、特定施設、グループホーム

(表2-9)

圏 域 名	特別養護老人ホーム		老人保健施設	特定施設		グループホーム
	広域型	地域密着型		広域型	地域密着型	
勝田第一中学校区域	1	1	2	—	—	1
勝田第二中学校区域	2	1	1	1	—	3
勝田第三中学校区域	1	—	—	1	—	—
佐野中学校区域	1	—	1	—	—	4
大島中学校区域	1	—	—	—	—	2
田彦中学校区域	—	1	—	—	—	1
那珂湊中学校区域	1	—	1	—	—	2
平磯中学校・阿字ヶ浦中学校区域	—	1	1	1	—	2
計	7	4	6	3	0	15

※ 平成29年11月1日現在。

イ 居宅サービス（通所サービス・短期入所サービス）

（表 2-10）

圏 域 名	デイサービス			デイケア （通所リハ ビリ）	ショートステイ	
	（通所介護）	（地域密着型 通所介護）	（認知症対応 型通所介護）		（短期入所 生活介護）	（短期入所 療養介護）
勝田第一中学校区域	6	4	1	5	2	3
勝田第二中学校区域	5	3	1	3	3	1
勝田第三中学校区域	7	（注1）4	1	—	1	—
佐野中学校区域	10	7	—	2	1	1
大島中学校区域	6	3	1	2	1	—
田彦中学校区域	4	3	—	—	1	—
那珂湊中学校区域	5	2	—	3	1	—
平磯中学校・ 阿字ヶ浦中学校区域	3	2	—	2	2	1
計	46	28	4	17	12	6

※ 平成 29 年 11 月 1 日現在。

※ （注 1）「地域密着型通所介護」の 1 事業所（休止）を含む。

## 5 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

### (1) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の概要

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査は、主に生活機能の面から高齢者の生活状況、健康、社会生活等の状況を把握し、介護（予防）サービスをはじめとする各種サービスの提供等の参考とするものです。

- 【調査対象】 平成28年12月1日現在65歳以上の方全員  
(要介護1以上の認定者は除く)
- 【対象者数】 34,209人  
(内訳) 一般高齢者 32,659人  
要支援認定者等 1,550人
- 【調査方法】 郵送発送・郵送回収法
- 【調査時期】 平成29年1月
- 【有効回収数】 23,081人(回収率 67.5%)  
(内訳) 一般高齢者 22,048人(回収率 67.5%)  
要支援認定者等 1,033人(回収率 66.6%)
- 【調査内容】 厚生労働省の調査様式をもとに、下記の内容で調査しました。  
(詳細は参考資料に掲載)
- ① あなたのご家族や生活状況について
  - ② からだを動かすことについて
  - ③ 食べることについて
  - ④ 毎日の生活について
  - ⑤ 地域での活動について
  - ⑥ たすけあいについて
  - ⑦ 健康について

## (2) 回答者の概要

### ①回答者の性別 (表 2-11)

項目	男性	女性	合計
回答者数 (人)	10,703	12,378	23,081
構成比 (%)	46.4	53.6	100.0

### ②年齢構成 (表 2-12)

項目	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上	合計
回答者数 (人)	6,461	6,022	5,498	3,228	1,427	445	23,081
構成比 (%)	28.0	26.1	23.8	14.0	6.2	1.9	100.0

### ③回答者が居住する日常生活圏域 (表 2-13)

項目	勝田第一 中学校区域	勝田第二 中学校区域	勝田第三 中学校区域	佐野 中学校区域	大島 中学校区域
回答者数(人)	4,305	3,867	2,571	3,171	2,473
構成比 (%)	18.7	16.8	11.1	13.7	10.7

項目	田彦 中学校区域	那珂湊 中学校区域	平磯中・阿字ヶ 浦中学校区域	合計
回答者数(人)	1,967	3,243	1,484	23,081
構成比 (%)	8.5	14.1	6.4	100.0

### (3) 日常生活圏域別の回収率及び回答者の性別等の構成比

(表 2-14)

項目		勝田第一 中学校区域	勝田第二 中学校区域	勝田第三 中学校区域	佐野 中学校区域	大島 中学校区域	田彦 中学校区域	那珂湊 中学校区域	平磯中学校・ 阿字ヶ浦 中学校区域			
調査対象者数(人)		6,270	5,473	3,796	4,594	3,600	2,840	5,059	2,577			
回答者数(人)		4,305	3,867	2,571	3,171	2,473	1,967	3,243	1,484			
回答率		68.7%	70.7%	67.7%	69.0%	68.7%	69.3%	64.1%	57.6%			
回答者の内訳及び構成比	性別	男性	回答者数	1,996	1,754	1,226	1,481	1,194	944	1,426	682	
			構成比	46.4%	45.4%	47.7%	46.7%	48.3%	48.0%	44.0%	46.0%	
	女性	回答者数	2,309	2,113	1,345	1,690	1,279	1,023	1,817	802		
		構成比	53.6%	54.6%	52.3%	53.3%	51.7%	52.0%	56.0%	54.0%		
	年齢別	65～69歳	回答者数	1,248	925	745	913	759	596	873	402	
			構成比	29.0%	23.9%	29.0%	28.8%	30.7%	30.3%	26.9%	27.1%	
		70～74歳	回答者数	1,127	969	833	759	662	590	769	313	
			構成比	26.2%	25.1%	32.4%	23.9%	26.8%	30.0%	23.7%	21.1%	
		75～79歳	回答者数	972	1,083	566	823	580	449	704	321	
			構成比	22.6%	28.0%	22.0%	26.0%	23.5%	22.8%	21.7%	21.6%	
		80～84歳	回答者数	596	576	282	464	298	209	547	256	
			構成比	13.8%	14.9%	11.0%	14.6%	12.1%	10.6%	16.9%	17.3%	
		85～89歳	回答者数	280	247	105	169	126	88	262	150	
			構成比	6.5%	6.4%	4.1%	5.3%	5.1%	4.5%	8.1%	10.1%	
		90歳以上	回答者数	82	67	40	43	48	35	88	42	
			構成比	1.9%	1.7%	1.6%	1.4%	1.9%	1.8%	2.7%	2.8%	
		認定状況別	一般高齢者	回答者数	4,114	3,699	2,483	3,047	2,378	1,890	3,068	1,369
				構成比	95.6%	95.7%	96.6%	96.1%	96.2%	96.1%	94.6%	92.3%
総合事業対象者	回答者数		17	25	11	18	4	10	15	34		
	構成比		0.4%	0.6%	0.4%	0.6%	0.2%	0.5%	0.5%	2.3%		
要支援1	回答者数		77	53	31	36	35	18	57	20		
	構成比		1.8%	1.4%	1.2%	1.1%	1.4%	0.9%	1.8%	1.3%		
要支援2	回答者数		97	90	46	70	56	49	103	61		
	構成比		2.3%	2.3%	1.8%	2.2%	2.3%	2.5%	3.2%	4.1%		

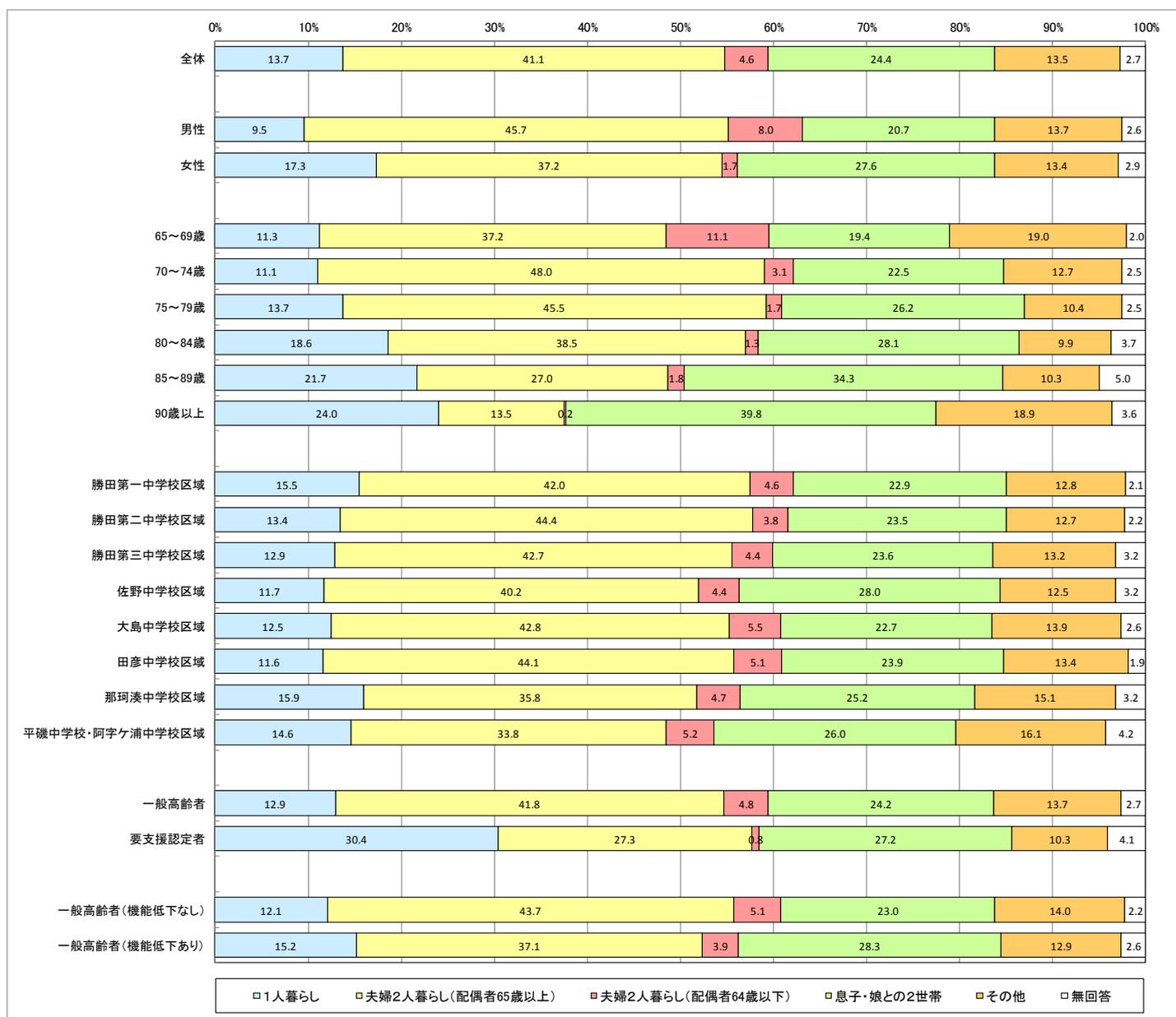
## (4) 調査結果

### ① あなたのご家族や生活状況について

家族構成については、全体では「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」が41.1%で最も高く、次いで「息子・娘との2世帯」が24.4%、「1人暮らし」が13.7%となっています。

「1人暮らし」を属性別にみると、性別では、男性が9.5%、女性が17.3%で、女性が7.8ポイント上回っています。年齢階級別では、年齢階級が上がるとともに割合が上昇し、85歳以上では2割を超えている。日常生活圏域別では、那珂湊中学校区域が15.9%で最も高く、次いで勝田第一中学校区域15.5%、平磯中学校・阿字ヶ浦中学校区域14.6%となっています。

(グラフ2-6)



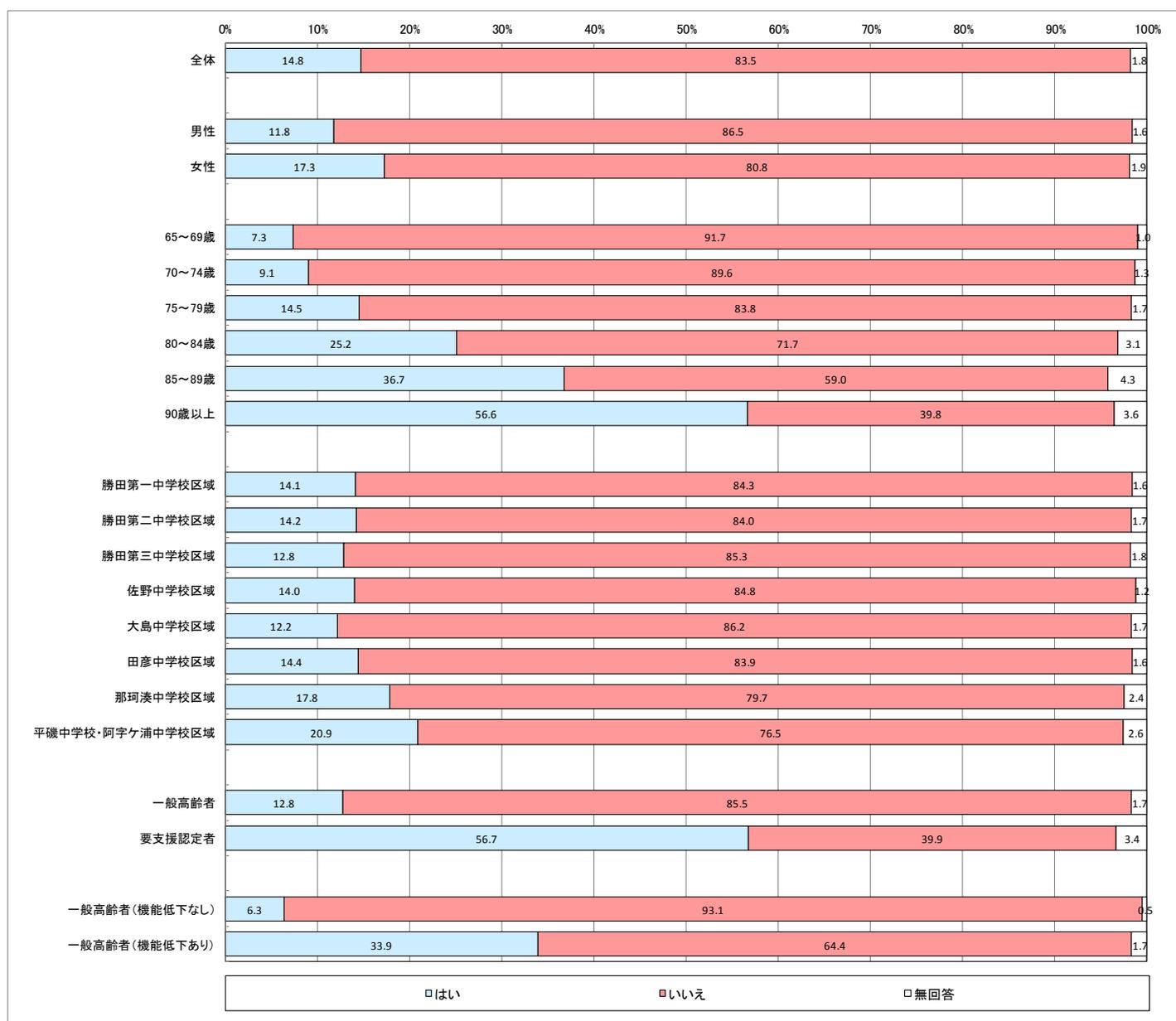
## ② 体を動かすことについて

外出を控えているかについては、全体では「はい」が 14.8%、「いいえ」が 83.5%で、「いいえ」が 68.7ポイント上回っています。

「はい」を属性別にみると、性別では、男性が 11.8%、女性が 17.3%で、女性が 5.5ポイント上回っています。年齢階級別では、年齢階級が上がるとともに割合が上昇し、90歳以上で 56.6%、次いで 85～89歳 36.7%と続きます。日常生活圏域別では、平磯中学校・阿字ヶ浦中学校区域が 20.9%で最も高く、次いで那珂湊中学校区域 17.8%、田彦中学校区域 14.4%と続きます。

なお、外出を控える主な原因として「足腰などの痛み」が 51.2%で最も多く、次いで「交通手段がない」が 18.6%、「トイレの心配（失禁など）」が 16.1%、「病気」が 16.0%、「外での楽しみがない」が 15.9%となっています。

(グラフ 2-7)

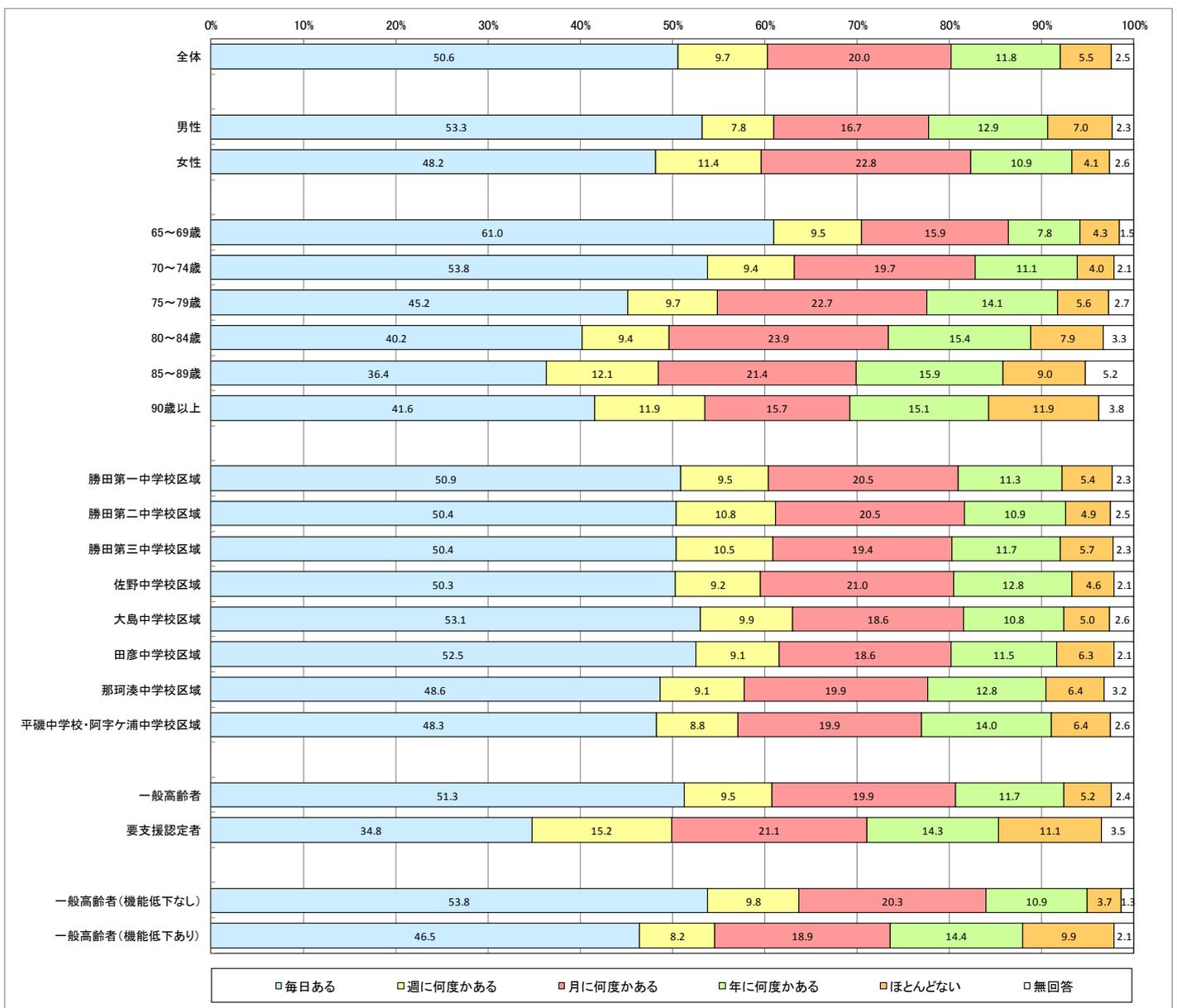


### ③ 食べることについて

どなたかと食事をとにもする機会があるかについては、全体では「毎日ある」が50.6%で最も高く、次いで「月に何度かある」が20.0%、「年に何度かある」が11.8%となっています。

「年に何度かある」と「ほとんどない」の合計値を属性別にみると、性別では、男性が19.9%、女性が15.0%で、男性が4.9ポイント上回っています。年齢階級別では、80歳以上で2割を超えています。日常生活圏域別では、平磯中学校・阿字ヶ浦中学校区域が20.4%で最も高く、次いで那珂湊中学校区域19.2%と続きます。

(グラフ 2-8)

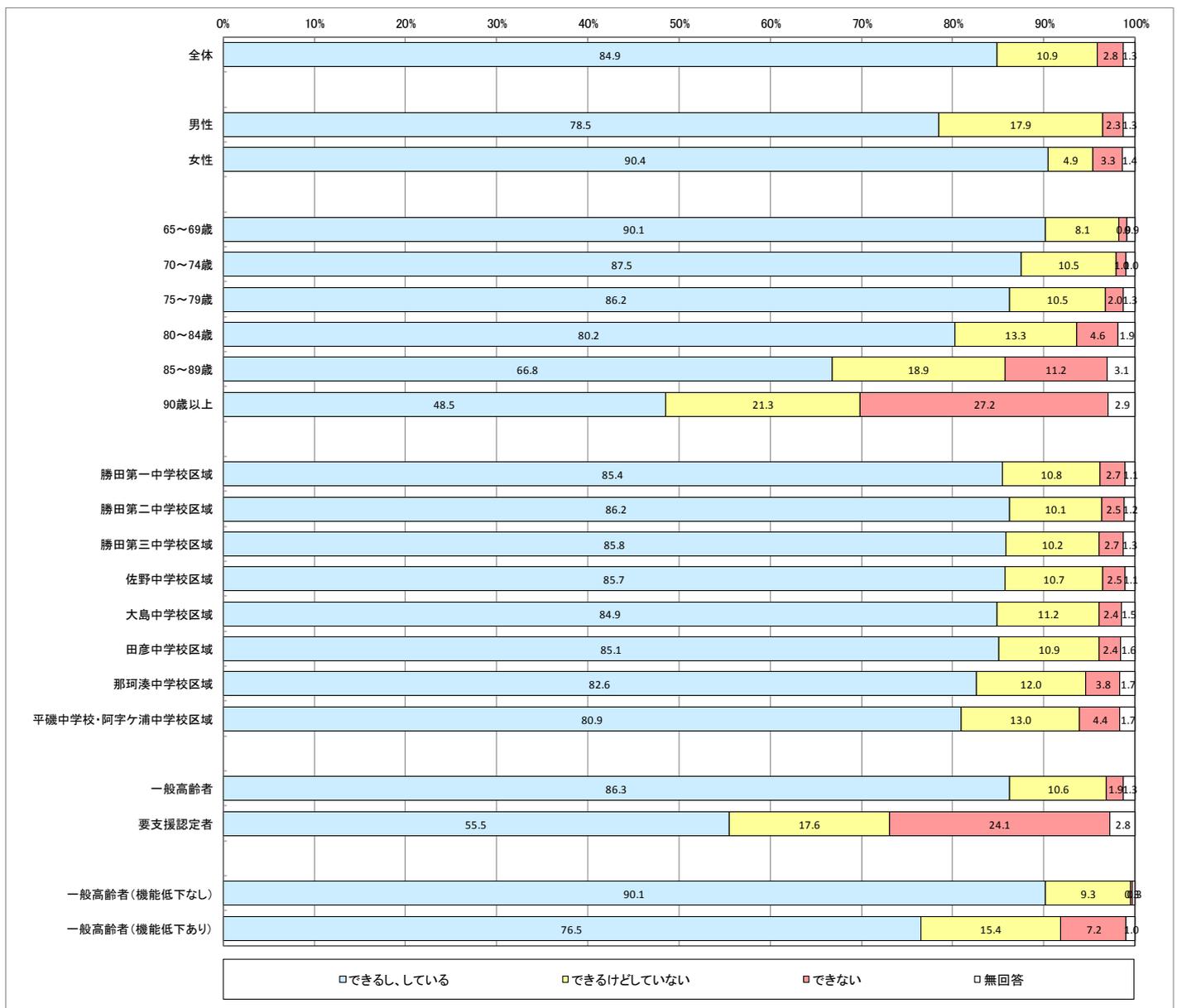


#### ④ 毎日の生活について

自分で食品・日用品の買い物をしているかについては、全体では「できるし、している」が84.9%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が10.9%、「できない」が2.8%となっています。

「できない」を属性別にみると、性別では、男性が2.3%、女性が3.3%で、女性が1.0ポイント上回っています。年齢階級別では、年齢階級が上がるごとに割合が上昇し、90歳以上が27.2%で最も高く、次いで85～89歳11.2%と続く。日常生活圏域別では、平磯中学校・阿字ヶ浦中学校区域が4.4%で最も高く、次いで那珂湊中学校区域3.8%、勝田第一中学校区域と勝田第三中学校区域の2.7%と続きます。

(グラフ 2-9)

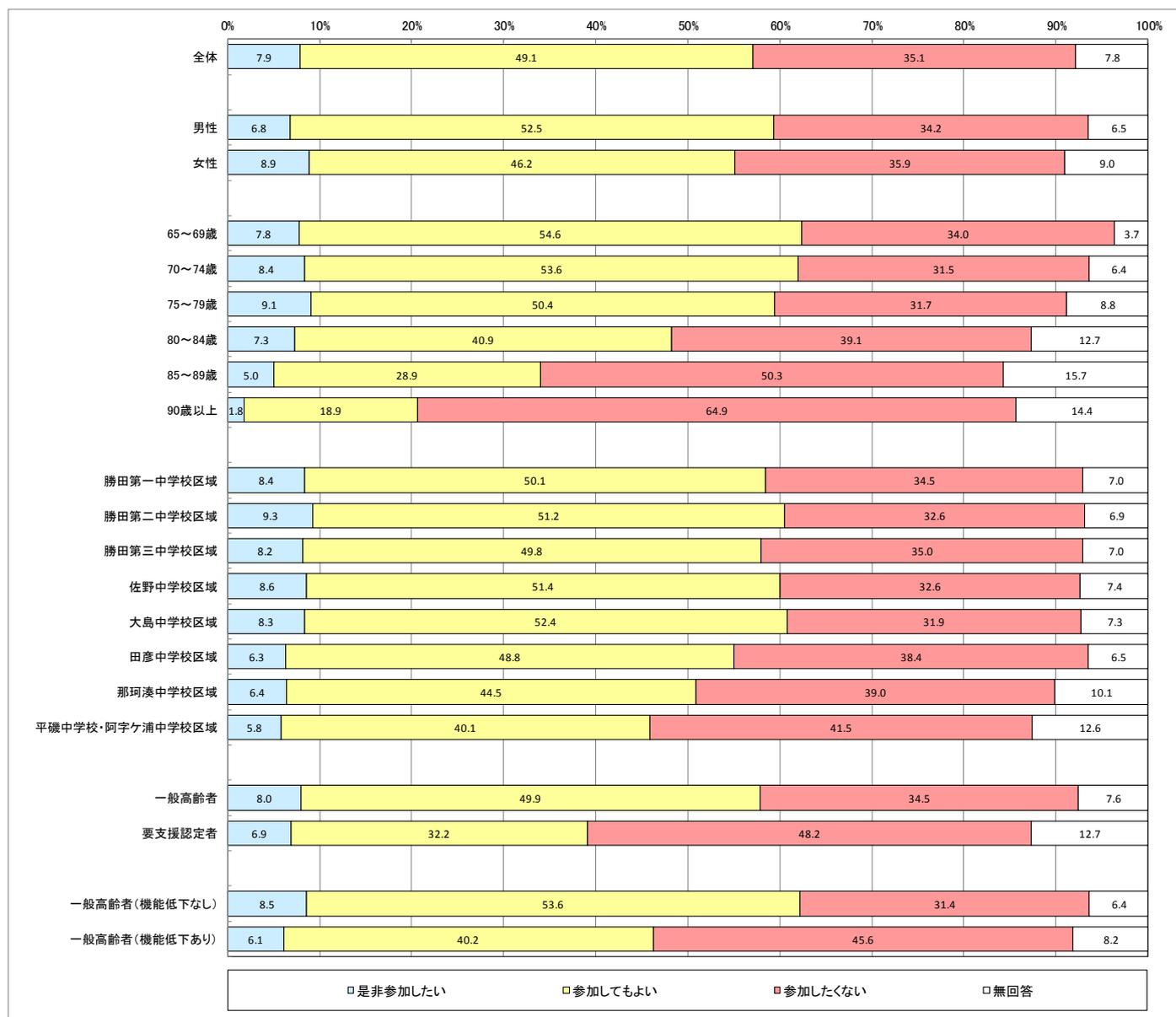


## ⑤ 地域での活動について

健康づくり活動や趣味等のグループ活動に参加者として参加してみたいと思うかについては、全体では「参加してもよい」が49.1%で最も高く、次いで「参加したくない」が35.1%、「是非参加したい」が7.9%となっています。

「是非参加したい」を属性別にみると、性別では、男性が6.8%、女性が8.9%で、女性が2.1ポイント上回っています。年齢階級別では、年齢階級が上がるとともに割合が減少する傾向となっています。日常生活圏域別では、勝田第二中学校区域が9.3%で最も高く、次いで佐野中学校区域8.6%、勝田第一中学校区域8.4%と続きます。

(グラフ 2-10)



## ⑥ たすけあいについて

家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手については、全体では「そのような人はいない」が34.0%で最も高く、次いで「医師・歯科医師・看護師」が27.9%、「社会福祉協議会・民生委員」が13.3%、「おとしより相談センター・市役所」が11.2%、「自治会・町内会・高齢者クラブ」が10.6%となっています。

性別では、男性、女性ともに「そのような人はいない」の割合が最も高く、次いで「医師・歯科医師・看護師」と続きます。

年齢階級別では、年齢階級が上がるるとともに「ケアマネジャー」の割合が上昇します。

(表 2-15)

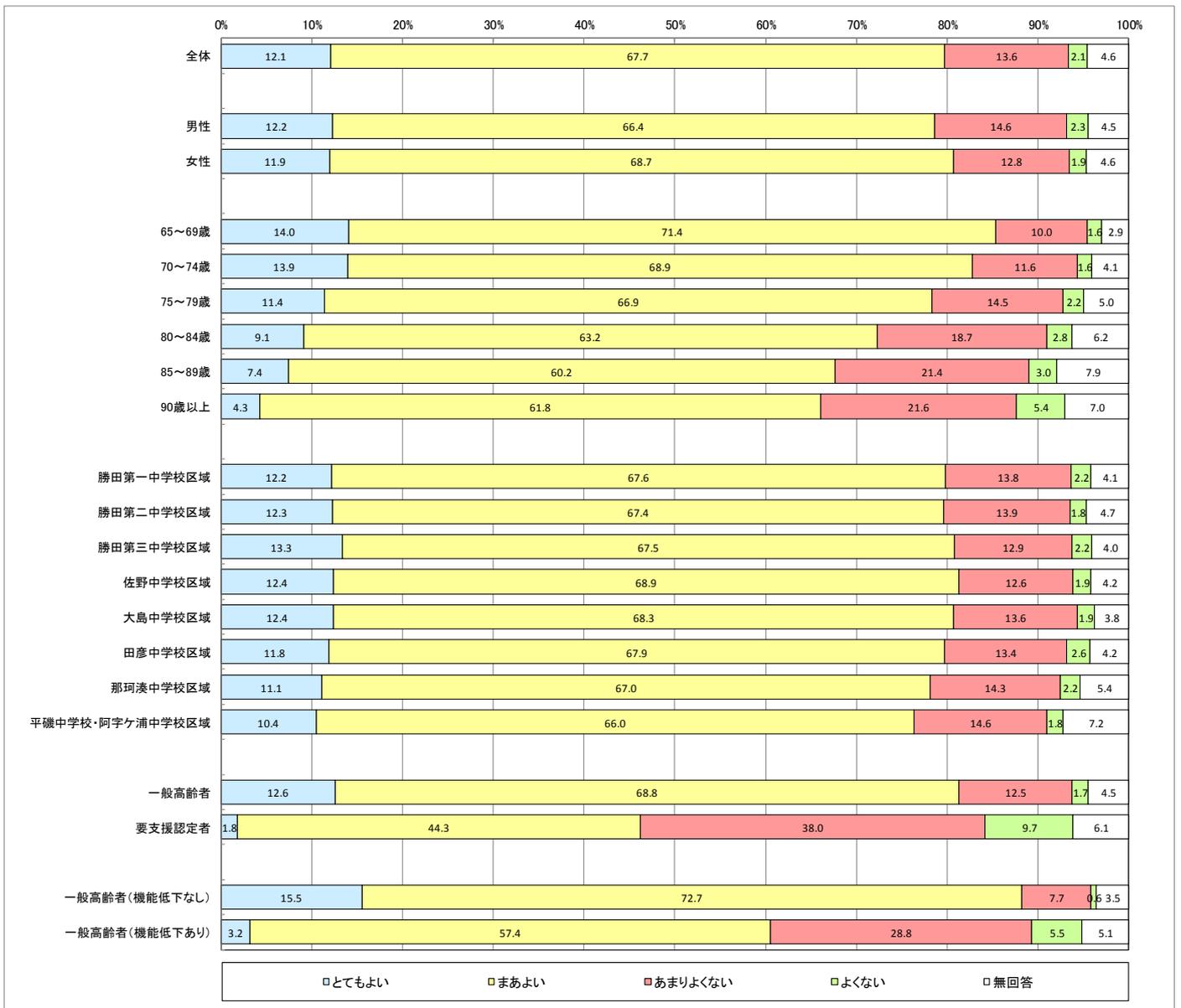
項目		1	2	3	4	5	6	7	無回答	総回答数	回答者数		
		自治会・町内会・高齢者クラブ	社会福祉協議会・民生委員	ケアマネジャー	医師・歯科医師・看護師	おとしより相談センター・市役所	その他	そのような人はいない					
全体	実数	2,449	3,075	1,306	6,451	2,592	1,933	7,857	3,020	28,683	23,081		
	構成比(%)	10.6	13.3	5.7	27.9	11.2	8.4	34.0	13.1	124.3	100.0		
性別	男性	実数	1,427	1,348	440	3,005	1,192	990	3,881	1,156	13,439	10,703	
	構成比(%)	13.3	12.6	4.1	28.1	11.1	9.2	36.3	10.8	125.6	100.0		
	女性	実数	1,022	1,727	866	3,446	1,400	943	3,976	1,864	15,244	12,378	
	構成比(%)	8.3	14.0	7.0	27.8	11.3	7.6	32.1	15.1	123.2	100.0		
年齢別	65～69歳	実数	496	584	247	1,595	655	667	2,810	592	7,646	6,461	
		構成比(%)	7.7	9.0	3.8	24.7	10.1	10.3	43.5	9.2	118.3	100.0	
	70～74歳	実数	648	745	223	1,661	681	531	2,097	778	7,364	6,022	
		構成比(%)	10.8	12.4	3.7	27.6	11.3	8.8	34.8	12.9	122.3	100.0	
	75～79歳	実数	726	905	320	1,658	701	436	1,584	781	7,111	5,498	
		構成比(%)	13.2	16.5	5.8	30.2	12.8	7.9	28.8	14.2	129.3	100.0	
	80～84歳	実数	379	560	280	980	362	199	853	535	4,148	3,228	
		構成比(%)	11.7	17.3	8.7	30.4	11.2	6.2	26.4	16.6	128.5	100.0	
	85～89歳	実数	169	220	170	438	154	69	376	261	1,857	1,427	
		構成比(%)	11.8	15.4	11.9	30.7	10.8	4.8	26.3	18.3	130.1	100.0	
	90歳以上	実数	31	61	66	119	39	31	137	73	557	445	
		構成比(%)	7.0	13.7	14.8	26.7	8.8	7.0	30.8	16.4	125.2	100.0	
日常生活圏域別	勝田第一中学校区域	実数	430	605	279	1,245	497	369	1,487	511	5,423	4,305	
		構成比(%)	10.0	14.1	6.5	28.9	11.5	8.6	34.5	11.9	126.0	100.0	
	勝田第二中学校区域	実数	454	614	251	1,112	455	318	1,234	492	4,930	3,867	
		構成比(%)	11.7	15.9	6.5	28.8	11.8	8.2	31.9	12.7	127.5	100.0	
	勝田第三中学校区域	実数	295	318	120	704	304	220	873	313	3,147	2,571	
		構成比(%)	11.5	12.4	4.7	27.4	11.8	8.6	34.0	12.2	122.4	100.0	
	佐野中学校区域	実数	371	441	166	878	393	286	1,053	401	3,989	3,171	
		構成比(%)	11.7	13.9	5.2	27.7	12.4	9.0	33.2	12.6	125.8	100.0	
	大島中学校区域	実数	280	284	129	745	298	185	901	257	3,079	2,473	
		構成比(%)	11.3	11.5	5.2	30.1	12.1	7.5	36.4	10.4	124.5	100.0	
	田彦中学校区域	実数	181	260	95	517	236	167	742	231	2,429	1,967	
		構成比(%)	9.2	13.2	4.8	26.3	12.0	8.5	37.7	11.7	123.5	100.0	
	那珂湊中学校区域	実数	333	376	173	887	282	273	1,077	520	3,921	3,243	
		構成比(%)	10.3	11.6	5.3	27.4	8.7	8.4	33.2	16.0	120.9	100.0	
	平磯中学校・阿字ヶ浦中学校区域	実数	105	177	93	363	127	115	490	295	1,765	1,484	
		構成比(%)	7.1	11.9	6.3	24.5	8.6	7.7	33.0	19.9	118.9	100.0	
	認定状況別	一般高齢者	実数	2,377	2,891	811	6,176	2,467	1,874	7,670	2,905	27,171	22,048
			構成比(%)	10.8	13.1	3.7	28.0	11.2	8.5	34.8	13.2	123.2	100.0
要支援認定者		実数	72	184	495	275	125	59	187	115	1,512	1,033	
		構成比(%)	7.0	17.8	47.9	26.6	12.1	5.7	18.1	11.1	146.4	100.0	
一般高齢者(機能低下なし)		実数	1,926	2,195	552	4,728	1,873	1,476	5,595	1,985	20,330	16,391	
		構成比(%)	11.8	13.4	3.4	28.8	11.4	9.0	34.1	12.1	124.0	100.0	
一般高齢者(機能低下あり)	実数	403	623	234	1,292	537	346	1,915	639	5,989	4,904		
	構成比(%)	8.2	12.7	4.8	26.3	11.0	7.1	39.0	13.0	122.1	100.0		

## ⑦ 健康について

現在の健康状態については、全体では「まあよい」が67.7%で最も高く、次いで「あまりよくない」が13.6%、「とてもよい」が12.1%となっています。

「あまりよくない」と「よくない」の合計値を属性別にみると、性別では、男性が16.9%、女性が14.7%で、男性が2.2ポイント上回っています。年齢階級別では、80歳以上で2割を超えています。日常生活圏域別では、那珂湊中学校区域が16.5%で最も高く、次いで平磯中学校・阿字ヶ浦中学校区域16.4%、勝田第一中学校区域と田彦中学校区域の16.0%と続きます。

(グラフ 2-11)



## (5) 介護予防のための生活機能評価について

生活機能評価により機能低下ありと評価された高齢者(評価項目中①から④のいずれかに機能低下が見られた高齢者)の割合は、25.5%であった。各評価項目別では運動器が10.7%、栄養が1.0%、口腔が18.3%、虚弱が7.6%、認知機能が40.4%、閉じこもりが15.0%、うつが34.8%でした。

男女別にみると、すべての評価項目で女性が男性を上回る割合となっており、特に運動器においてその差が大きくなっています。

年齢別にみると、年齢が高くなるに従い、各評価項目の該当者の割合が高くなる。最もその差が大きいのが運動器と虚弱、閉じこもりであり、運動器では65歳～69歳の4.0%に対し、90歳以上は53.4%、虚弱では65歳～69歳の3.0%に対し、90歳以上は46.9%、閉じこもりでは65歳～69歳の9.0%に対し、90歳以上は56.8%が該当しています。

日常生活圏域別にみると、那珂湊中学校区域、平磯中学校・阿字ヶ浦中学校区域で該当割合が高くなっています。

小学校区域別にみると、勝倉小学校区域、東石川小学校区域、堀口小学校区域、那珂湊第一小学校区域、那珂湊第二小学校区域、那珂湊第三小学校区域、平磯小学校区域、磯崎小学校区域、阿字ヶ浦小学校区域で該当割合が高くなっています。

(表 2-16)

評価項目		①運動器	②栄養	③口腔	④虚弱	⑤認知機能	⑥閉じこもり	⑦うつ	①～④の いずれかに 該当
全体		10.7%	1.0%	18.3%	7.6%	40.4%	15.0%	34.8%	25.5%
性別	男性	7.0%	0.7%	17.7%	6.5%	38.5%	12.4%	33.7%	22.5%
	女性	14.0%	1.1%	18.8%	8.6%	42.0%	17.3%	35.9%	28.2%
年齢別	65～69歳	4.0%	0.6%	13.5%	3.0%	31.8%	9.0%	33.9%	16.6%
	70～74歳	5.0%	0.8%	14.7%	3.5%	35.8%	10.1%	32.5%	18.7%
	75～79歳	10.2%	1.0%	18.9%	6.3%	44.5%	13.9%	34.2%	26.1%
	80～84歳	20.3%	1.2%	26.0%	13.6%	50.3%	23.9%	38.2%	38.9%
	85～89歳	34.3%	2.1%	29.7%	27.3%	54.6%	36.5%	41.2%	51.7%
	90歳以上	53.4%	2.3%	37.2%	46.9%	60.5%	56.8%	45.6%	67.2%
日常生活圏域別	勝田第一中学校区域	10.2%	1.2%	17.9%	7.4%	39.5%	14.0%	34.5%	24.6%
	勝田第二中学校区域	10.0%	0.7%	18.3%	6.9%	41.3%	14.3%	34.1%	24.9%
	勝田第三中学校区域	8.9%	0.9%	17.9%	6.7%	38.2%	14.1%	34.8%	23.9%
	佐野中学校区域	9.9%	0.8%	16.8%	7.0%	39.9%	14.6%	33.3%	23.3%
	大島中学校区域	9.1%	1.4%	16.1%	6.7%	39.2%	12.5%	34.8%	22.7%
	田彦中学校区域	10.1%	0.9%	18.5%	7.2%	39.1%	14.3%	34.6%	25.1%
	那珂湊中学校区域	14.5%	0.7%	20.1%	9.9%	42.4%	17.3%	36.6%	30.5%
	平磯中学校・ 阿字ヶ浦中学校区域	14.0%	1.0%	22.8%	10.4%	44.8%	22.9%	38.1%	32.1%
小学校区域別	中根小学校区域	8.2%	0.8%	16.8%	5.6%	40.0%	11.1%	34.8%	22.5%
	勝倉小学校区域	11.5%	1.3%	18.3%	8.3%	38.7%	17.2%	34.7%	26.5%
	三反田小学校区域	9.8%	1.0%	18.1%	8.5%	40.5%	20.1%	29.8%	25.0%
	枝川小学校区域	9.9%	0.7%	18.9%	6.0%	36.1%	16.8%	27.2%	25.0%
	東石川小学校区域	12.7%	2.1%	19.3%	9.3%	41.9%	13.4%	35.6%	27.1%
	市毛小学校区域	11.2%	0.6%	17.4%	7.6%	44.1%	14.5%	33.1%	24.5%
	前渡小学校区域	9.4%	0.9%	18.3%	7.0%	38.4%	14.1%	34.9%	24.5%
	佐野小学校区域	9.5%	0.9%	16.2%	6.8%	40.2%	13.9%	32.9%	22.3%
	堀口小学校区域	10.5%	1.1%	20.3%	7.1%	40.7%	13.5%	35.8%	27.0%
	高野小学校区域	9.4%	0.8%	17.5%	6.8%	38.7%	15.6%	34.1%	23.9%
	田彦小学校区域	10.1%	0.9%	18.5%	7.2%	39.1%	14.3%	34.6%	25.1%
	津田小学校区域	8.2%	0.7%	18.1%	5.9%	39.0%	14.0%	36.1%	24.0%
	長堀小学校区域	9.6%	1.0%	17.7%	6.5%	38.1%	11.5%	34.6%	23.8%
	外野小学校区域	8.0%	1.1%	14.7%	5.9%	38.1%	12.1%	35.3%	20.5%
	那珂湊第一小学校区域	13.8%	0.5%	19.7%	9.5%	42.4%	16.4%	35.1%	28.8%
	那珂湊第二小学校区域	16.9%	1.2%	19.2%	9.7%	42.6%	17.9%	37.8%	32.9%
	那珂湊第三小学校区域	13.5%	0.6%	22.2%	11.0%	42.1%	18.9%	39.5%	32.7%
	平磯小学校区域	13.5%	0.8%	21.6%	9.1%	43.7%	21.7%	36.7%	31.1%
	磯崎小学校区域	15.1%	0.9%	26.0%	12.3%	47.8%	23.7%	42.0%	34.6%
阿字ヶ浦小学校区域	14.4%	1.7%	22.5%	11.8%	44.1%	25.3%	37.6%	31.7%	
状況別	一般高齢者	8.2%	0.8%	17.0%	5.7%	39.4%	13.8%	33.7%	23.0%
	要支援認定者	66.1%	3.3%	46.2%	49.0%	60.6%	41.1%	60.1%	78.5%

## (6) その他の生活機能評価の結果について

介護予防のための生活機能評価のほかに、本調査票には、①転倒リスク、②手段的自立度（IADL）、③生活機能総合評価、④知的能動性、⑤社会的役割の生活機能、身体機能を評価するための項目が設けられています。

回答者全体で各項目の評価結果についてみると、転倒リスクは全体で24.7%が「該当者」と判定されました。年齢が高くなるに従い、該当者割合も高くなり、65歳～69歳では19.2%に対し、90歳以上では48.1%が該当者と判定されています。

手段的自立度（IADL）については、高いが89.4%、やや低い6.6%、低い4.1%との評価結果となっており、また、生活機能総合評価では、高いが79.7%、やや低い13.3%、低い7.1%との評価結果となっています。手段的自立度より、生活機能総合評価の方が、若干低い評価結果となっています。

知的能動性については、高いが68.9%、やや低い20.5%、低い10.6%との評価結果であり、また、社会的役割については、高いが53.0%、やや低い25.1%、低い21.9%との評価結果でした。両項目とも生活機能総合評価よりさらに低い評価結果になっています。

男女別にみると、社会的役割の「低い」の判定で男女の差が大きくみられ、女性の17.7%に対し、男性は26.8%と判定されています。

年齢別にみると、介護予防のための生活機能評価と同様、大きな差がみられます。年齢が高くなるに従い、次第に機能が低下する評価結果であり、特に90歳以上の方の機能は大きく低下することがみられます。

日常生活圏域別にみると、全体を通し那珂湊中学校区域、平磯中学校・阿字ヶ浦中学校区域で「低い」の判定割合が高くなっています。

(表 2-17)

評価項目		転倒リスク	手段の自立度 (IADL)	生活機能 総合評価	知的能動性	社会的参加
		該当者	低い	低い	低い	低い
全体		24.7%	4.1%	7.1%	10.6%	21.9%
性別	男性	21.7%	4.0%	7.5%	10.0%	26.8%
	女性	27.3%	4.2%	6.6%	11.2%	17.7%
年齢別	65～69歳	19.2%	1.4%	4.6%	9.4%	20.2%
	70～74歳	21.6%	1.9%	4.4%	8.2%	17.4%
	75～79歳	25.9%	2.9%	5.2%	8.8%	19.6%
	80～84歳	31.0%	6.7%	10.2%	14.5%	26.5%
	85～89歳	37.5%	15.7%	20.8%	19.1%	37.7%
	90歳以上	48.1%	36.6%	43.1%	31.1%	57.5%
日常生活圏域別	勝田第一中学校区域	23.5%	3.6%	6.2%	9.7%	22.9%
	勝田第二中学校区域	24.4%	3.6%	6.1%	9.3%	20.4%
	勝田第三中学校区域	24.3%	4.0%	6.9%	10.1%	21.3%
	佐野中学校区域	23.4%	3.4%	6.2%	9.2%	20.1%
	大島中学校区域	22.0%	3.5%	6.3%	9.0%	24.1%
	田彦中学校区域	24.9%	3.5%	7.0%	10.0%	21.6%
	那珂湊中学校区域	28.5%	5.7%	9.5%	13.5%	23.1%
	平磯中学校・ 阿字ヶ浦中学校区域	28.6%	6.6%	10.4%	18.1%	22.4%
小学校区域別	中根小学校区域	22.7%	3.0%	4.8%	7.6%	19.0%
	勝倉小学校区域	24.9%	3.7%	7.0%	10.3%	24.2%
	三反田小学校区域	25.4%	5.3%	7.5%	14.1%	23.5%
	枝川小学校区域	21.1%	3.9%	5.9%	9.9%	16.7%
	東石川小学校区域	24.1%	4.4%	8.1%	8.6%	24.7%
	市毛小学校区域	25.6%	4.0%	6.1%	8.7%	20.1%
	前渡小学校区域	24.5%	4.0%	6.8%	10.4%	21.8%
	佐野小学校区域	22.7%	3.0%	5.9%	8.6%	19.3%
	堀口小学校区域	22.8%	3.9%	8.0%	10.7%	23.6%
	高野小学校区域	24.6%	4.1%	6.9%	10.0%	20.8%
	田彦小学校区域	24.9%	3.5%	7.0%	10.0%	21.6%
	津田小学校区域	24.5%	2.9%	5.1%	9.1%	19.8%
	長堀小学校区域	21.6%	3.0%	5.3%	9.4%	25.2%
	外野小学校区域	21.3%	3.2%	5.6%	9.4%	23.6%
	那珂湊第一小学校区域	27.9%	5.0%	8.9%	11.6%	22.0%
	那珂湊第二小学校区域	30.4%	6.2%	9.3%	15.5%	23.4%
	那珂湊第三小学校区域	27.7%	7.1%	11.5%	16.3%	25.7%
	平磯小学校区域	29.1%	5.9%	8.9%	16.9%	22.5%
	磯崎小学校区域	27.0%	8.0%	13.2%	21.0%	22.0%
	阿字ヶ浦小学校区域	29.1%	7.2%	11.6%	18.4%	22.7%
認定状況別	一般高齢者	23.3%	2.9%	5.8%	9.8%	20.5%
	要支援認定者	54.4%	29.6%	35.8%	28.4%	52.6%
	一般高齢者(機能低下なし)	16.2%	0.8%	2.5%	6.7%	15.7%
	一般高齢者(機能低下あり)	46.6%	10.3%	17.2%	20.3%	36.7%

## (7) 日常生活圏域別の実態のまとめ

今回の介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果より、各日常生活圏域の高齢者の実態の一部についてまとめました。

### ① 勝田第一中学校区域

- 前期高齢者が 55.2%，後期高齢者が 44.8%と、前期高齢者の割合が上回る。
- 家族構成では、1人暮らしの割合が高い。
- 自身の健康状態では、あまりよくない、よくないの割合の合計値が高い。
- 経済状況では、ややゆとりがある、大変ゆとりがあるの割合の合計値が高い。
- 外出する際の移動手段では、徒歩、路線バスの割合が高い。
- だれかと食事をする機会では、毎日ある、週に何度かあるの割合の合計値は、平均的な値を示している。
- 社会参加では、参加者として参加する意向及び企画・運営として参加する意向ともに、是非参加したい、参加してもよいの割合の合計値は、平均的な値を示している。
- 現在の幸福感では、6点～10点の割合の合計値は 69.5%である。
- 7分類リスクでは、栄養においてやや高い該当率を示すが、口腔、閉じこもり、うつでは低い該当率を示している。

### ② 勝田第二中学校区域

- 前期高齢者が 49.0%，後期高齢者が 51.0%と、後期高齢者の割合が上回る。
- 家族構成では、夫婦2人暮らし（配偶者 65歳以上）の割合が高い。
- 自身の健康状態では、とてもよい、まあよい、あまりよくないの割合が平均的な値を示している。
- 経済状況では、ややゆとりがある、大変ゆとりがあるの割合の合計値が高い。
- 外出する際の移動手段では、自転車、路線バスの割合が高い。
- だれかと食事をする機会では、毎日ある、週に何度かあるの割合の合計値が高い。
- 社会参加では、参加者として参加する意向及び企画・運営として参加する意向ともに、是非参加したい、参加してもよいの割合の合計値が高い。
- 現在の幸福感では、6点～10点の割合の合計値は 70.0%である。
- 7分類リスクでは、認知機能においてやや高い該当率を示すが、虚弱、栄養、うつにおいて低い該当率である。

### ③ 勝田第三中学校区域

- 前期高齢者が 61.4%，後期高齢者が 38.7%と、前期高齢者の割合が上回る。
- 家族構成では、夫婦2人暮らし（配偶者 64歳以下）でやや低い割合を示している。
- 自身の健康状態では、とてもよい、まあよいの割合の合計値が高い。
- 経済状況では、やや苦しいの割合が高い一方で、ややゆとりがある、大変ゆとりがあるの割合の合計値は低い。
- 外出する際の移動手段では、バイク、自動車（自分で運転）の割合が高い。
- だれかと食事をする機会では、週に何度かあるの割合が高い。
- 社会参加では、参加者として参加する意向においては、是非参加したい、参

加してもよいの割合は平均的な値を示している。また、企画・運営として参加する意向においては、是非参加したいの割合が高い。

- 現在の幸福感では、6点～10点の合計値は67.1%である。
- 7分類リスクでは、すべての項目で低い該当率を示し、特に虚弱、運動器、認知機能、閉じこもりで低い該当率である。

#### ④ 佐野中学校区域

- 前期高齢者が52.7%、後期高齢者が47.3%と、前期高齢者の割合が上回る。
- 家族構成では、1人暮らしの割合が低く、息子・娘との2世帯の割合が高い。
- 自身の健康状態では、とてもよい、まあよいの割合の合計値が高い。
- 経済状況では、大変苦しいの割合が低い。
- 外出する際の移動手段では、電車の割合が高い。
- だれかと食事をする機会では、月に何度かあるの割合が高い。
- 社会参加では、参加者として参加する意向及び企画・運営として参加する意向ともに、是非参加したい、参加してもよいの割合の合計値が高い。
- 現在の幸福感では、6点～10点の合計値は69.5%である。
- 7分類リスクでは、すべての項目で低い該当率を示し、特に運動器、口腔、うつで低い該当率である。

#### ⑤ 大島中学校区域

- 前期高齢者が57.5%、後期高齢者が42.6%と、前期高齢者の割合が上回る。
- 家族構成では、夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）、夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）の割合が高い。
- 自身の健康状態では、とてもよい、まあよいの割合の合計値が高い。
- 経済状況では、ややゆとりがある、大変ゆとりがあるの割合の合計値が高い。
- 外出する際の移動手段では、徒歩、自転車、自動車（自分で運転）、電車の割合が高い。
- だれかと食事をする機会では、毎日ある、週に何度かあるの割合の合計値が高い。
- 社会参加では、参加者として参加する意向及び企画・運営として参加する意向ともに、是非参加したい、参加してもよいの割合の合計値が高い。
- 現在の幸福感では、6点～10点の合計値は71.7%である。
- 7分類リスクでは、栄養においてやや高い該当率を示すが、虚弱、運動器、口腔、認知機能、閉じこもりでは低い該当率を示している。

#### ⑥ 田彦中学校区域

- 前期高齢者が60.3%、後期高齢者が39.7%と、前期高齢者の割合が上回る。
- 家族構成では、夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）、夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）の割合が高い。
- 自身の健康状態では、まあよいの割合が高い。
- 経済状況では、大変苦しい、やや苦しいの割合の合計値が高い。
- 外出する際の移動手段では、徒歩、自転車、自動車（自分で運転）、電車の割合が高い。
- だれかと食事をする機会では、毎日あるの割合が高い。

- 社会参加では，参加者として参加する意向及び企画・運営として参加する意向ともに，是非参加したいの割合が低い。
- 現在の幸福感では，6点～10点の合計値は69.3%である。
- 7分類リスクでは，すべての項目で平均的な値を示している。

#### ⑦ 那珂湊中学校区域

- 前期高齢者が50.6%，後期高齢者が49.4%と，前期高齢者の割合が上回る。
- 家族構成では，1人暮らし，息子・娘との2世帯の割合が高い。
- 自身の健康状態では，あまりよくない，よくないの割合の合計値が高い。
- 経済状況では，大変苦しい，やや苦しいの割合の合計値が高い。
- 外出する際の移動手段では，バイク，自動車（人に乗せてもらう）の割合が高い。
- だれかと食事をする機会では，年に何度かある，ほとんどないの割合の合計値が高い。
- 社会参加では，参加者として参加する意向及び企画・運営として参加する意向ともに，是非参加したいの割合が低い。
- 現在の幸福感では，6点～10点の合計値は64.7%である。
- 7分類リスクでは，栄養を除きすべての項目で高い該当率を示している。

#### ⑧ 平磯中学校・阿字ヶ浦中学校区域

- 前期高齢者が48.2%，後期高齢者が51.8%と，後期高齢者の割合が上回る。
- 家族構成では，1人暮らし，夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）の割合が高い。
- 自身の健康状態では，あまりよくない，よくないの割合の合計値が高い。
- 経済状況では，大変苦しい，やや苦しいの割合の合計値が高い。
- 外出する際の移動手段では，バイク，自動車（人に乗せてもらう）の割合が高い。
- だれかと食事をする機会では，年に何度かある，ほとんどないの割合の合計値が高い。
- 社会参加では，参加者として参加する意向及び企画・運営として参加する意向ともに，是非参加したいの割合が低い。
- 現在の幸福感では，6点～10点の合計値は63.1%である。
- 7分類リスクでは，栄養を除きすべての項目で高い該当率を示している。

## 6 在宅介護実態調査（☆）

### （1）在宅介護実態調査の概要

在宅介護実態調査は、第7期介護保険事業計画の策定において、介護離職をなくしていくためにはどのようなサービスが必要かといった観点を盛り込むため、高齢者等の適切な在宅生活の継続と家族等介護者の就労継続の実現に向けた介護サービスのあり方を検討することを目的として、在宅で要支援・要介護認定を受けている方を対象に調査を実施しました。

#### 【調査対象者】

医療機関への入院者または介護保険施設等への入所・入居者を除く在宅の要支援・要介護者で実施期間中に要介護認定の更新または区分変更の申請を行った方

#### 【調査方法】

認定調査時に認定調査員による聞き取り調査と郵送調査の併用

#### 【調査実施期間】

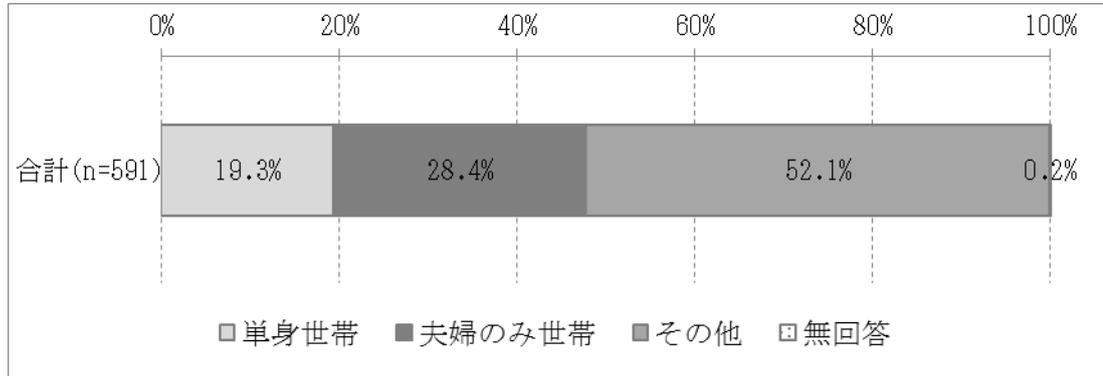
平成29年1月5日～7月3日

#### 【調査実績】

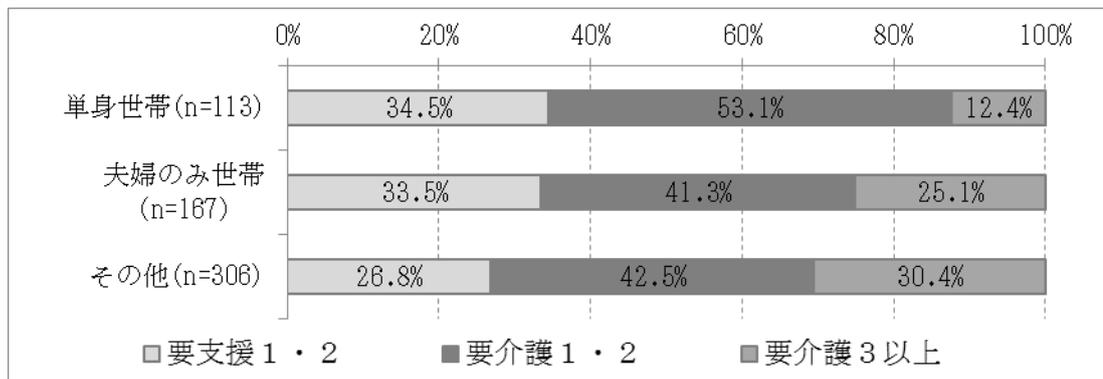
調査方法	調査対象者数	回収数	回収率
認定調査員による聞き取り	509	301	59.1%
郵送調査	680	302	44.4%
合計	1,189	603	50.7%

## (2) 調査結果

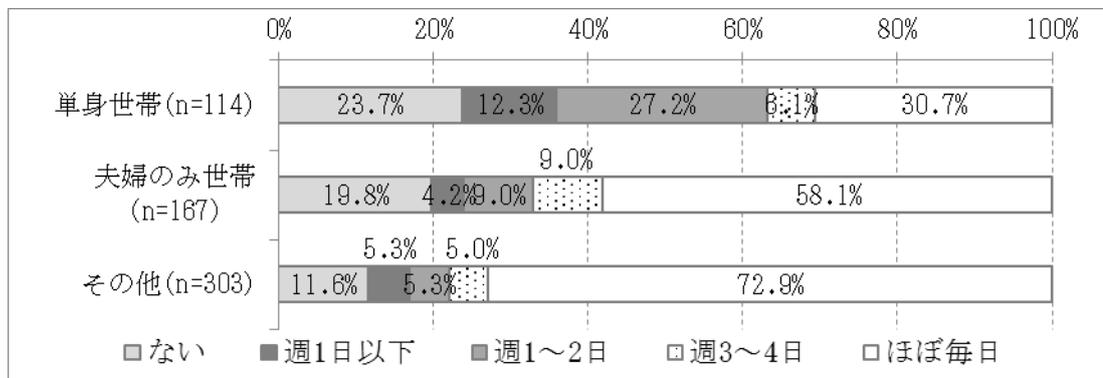
### ① 調査対象者の世帯構成



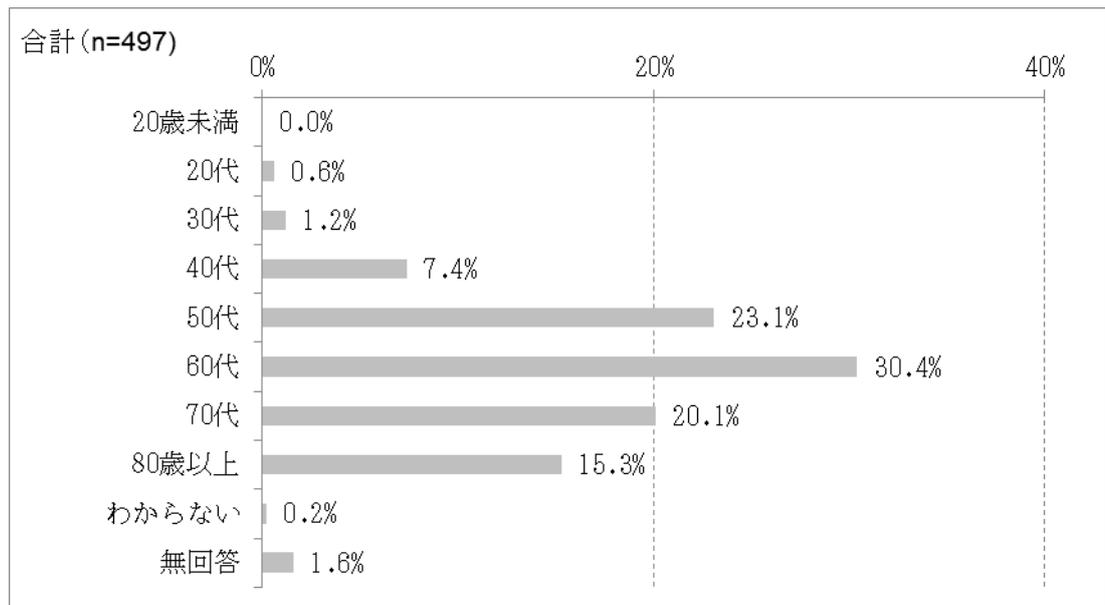
### ② 調査対象者の要介護度の割合



### ③ 家族・親族の介護の頻度等 (世帯構成)

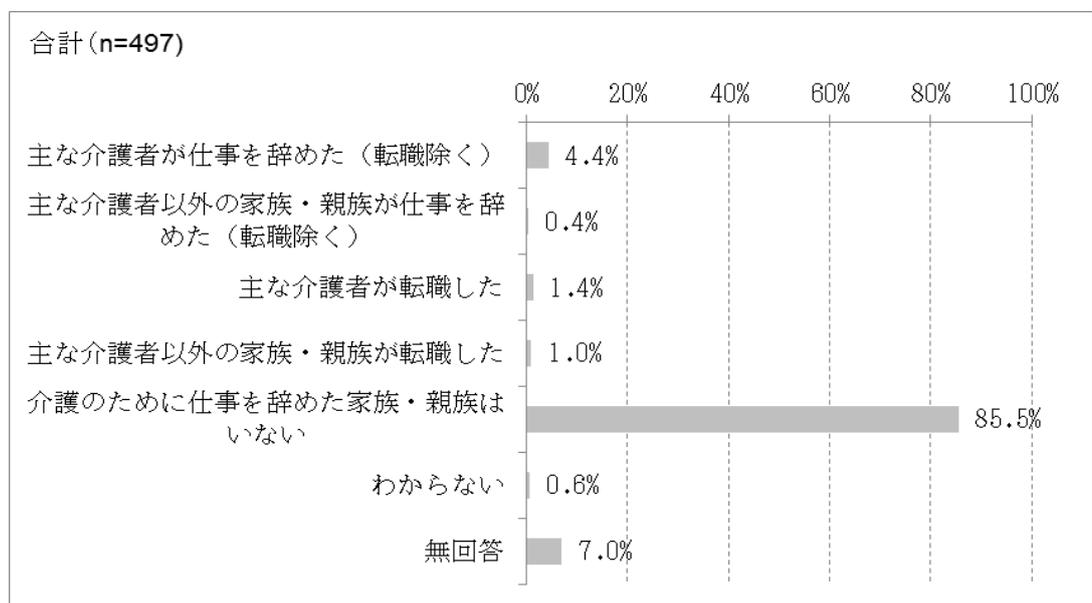


#### ④ 主な介護者の年齢



50代以上の世代が主に介護を担っている家庭が、88.9%であり、そのうち70代以上の世代が介護を担っている家庭は、35.4%以上となっています。

#### ⑤ 介護者の過去1年以内の離職・転職の状況（割合）



○ ひたちなか市では、「主な介護者が仕事を辞めた」との割合が4.4%と全国人口10万人以上30万人未満の市町村の平均6.0%と比較して低くなっており、また、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」との割合も85.5%と全国平均74.7%と比べて約10%高い結果となっています。

⑥ 介護者の過去1年以内の離職・転職の状況（人数）

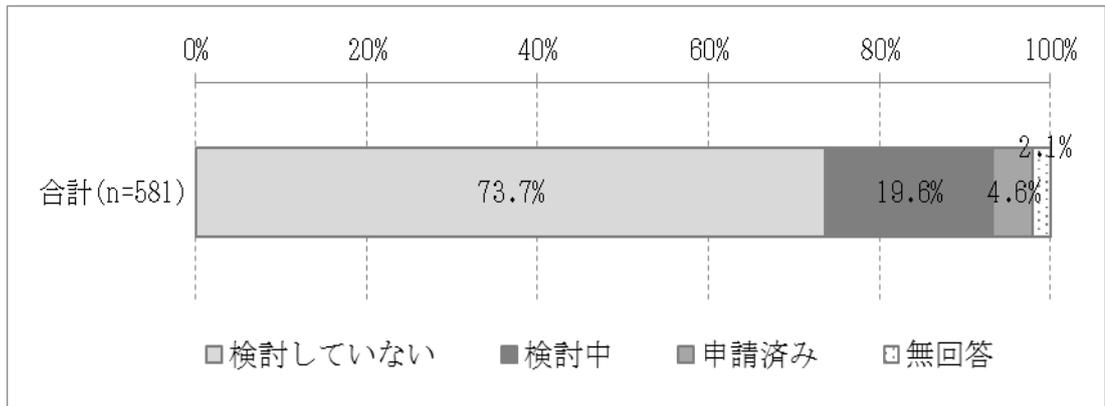
離職・転職の状況 介護の頻度	主な介護者		その他家族・親族		計
	離職	転職	離職	転職	
週1日未満	2人	0人	0人	0人	2人
週1～2日ある	4人	1人	2人	1人	8人
週3～4日ある	3人	1人	0人	2人	6人
ほぼ毎日ある	12人	5人	0人	2人	19人
計	21人	7人	2人	5人	35人

↑

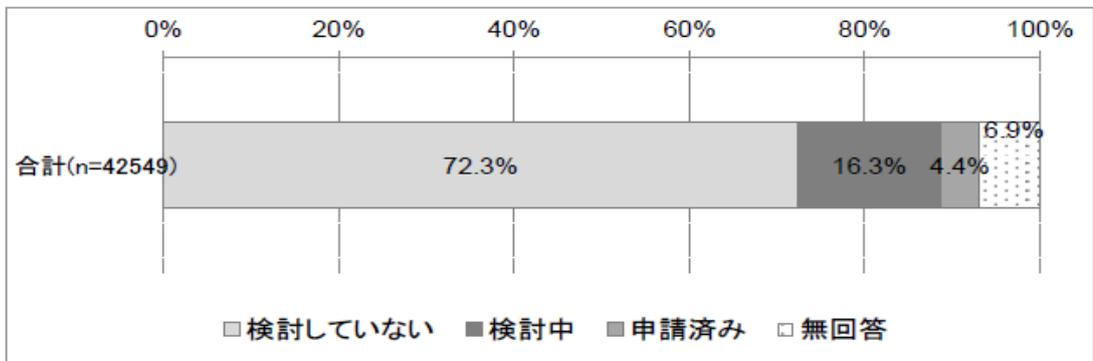
	離職	転職
40歳代	3人	0人
50歳代	2人	5人
60歳代	13人	1人
70歳代	3人	1人
80歳代以上	0人	0人

- 主な介護者の離職のうち、60歳代の人数が多く、転職は50歳代の人数が多くなっています。

⑦ 調査時点での施設への入所・入居検討について

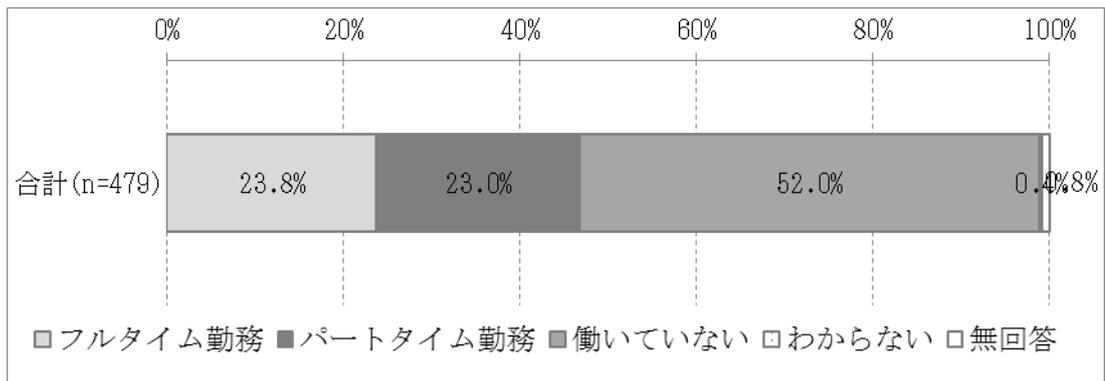


参考 全国人口10万人以上30万人未満の市町村集計調査時点での施設への入所・入居検討について

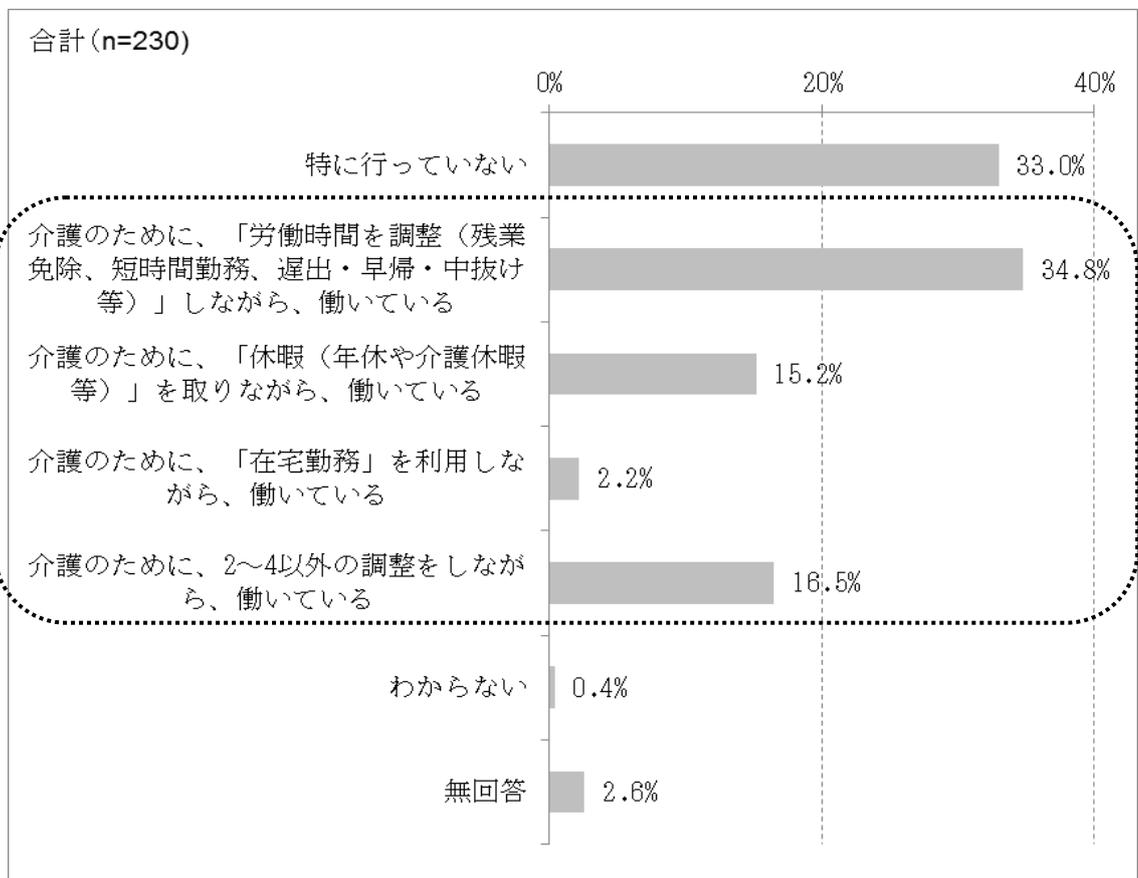


○ ひたちなか市では、全国人口10万人以上30万人未満の市町村との集計と比較して、施設入所・入居を「検討していない」、「申請済み」の割合は、ほぼ同じですが、「検討中」と答えた方の割合が、19.6%と全国に比べて3.3%多くなっています。

⑧ 主な介護者の勤務形態

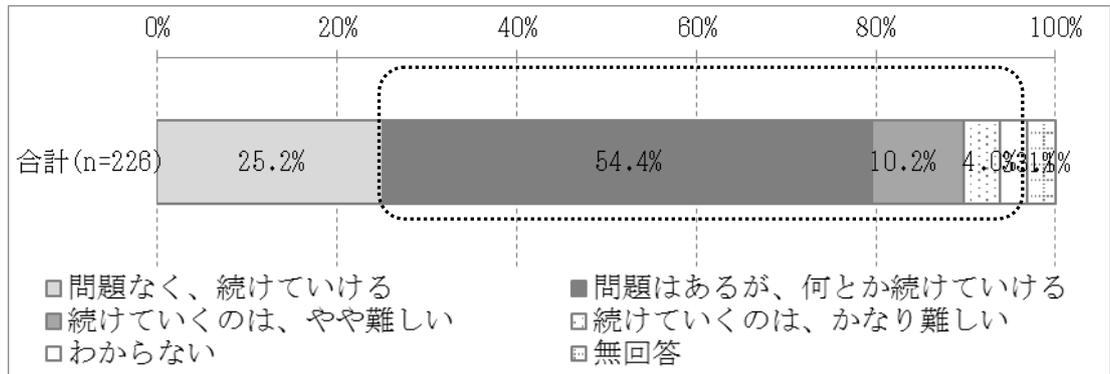


⑨ 主な介護者が介護をするにあたっての働き方の調整（複数回答）

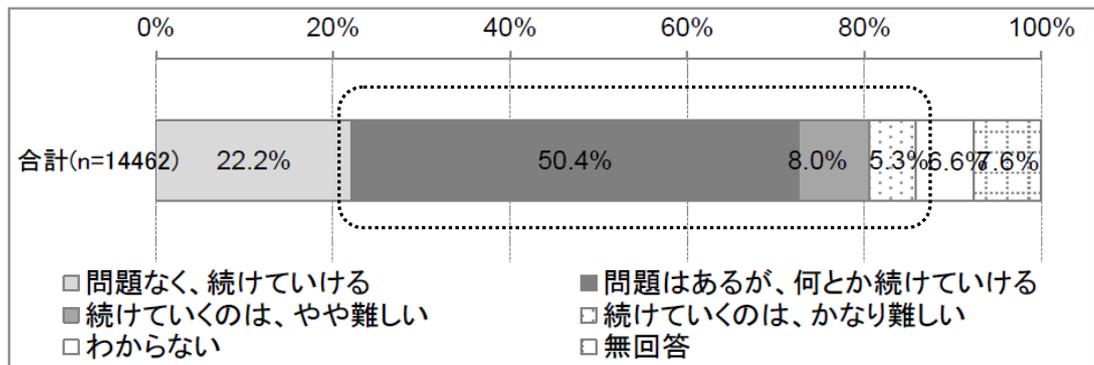


- 就労している介護者の約7割の方が、介護をするにあたって、上記のとおり働き方を調整しています。

⑩ 介護者の就労の継続可否に係る意識

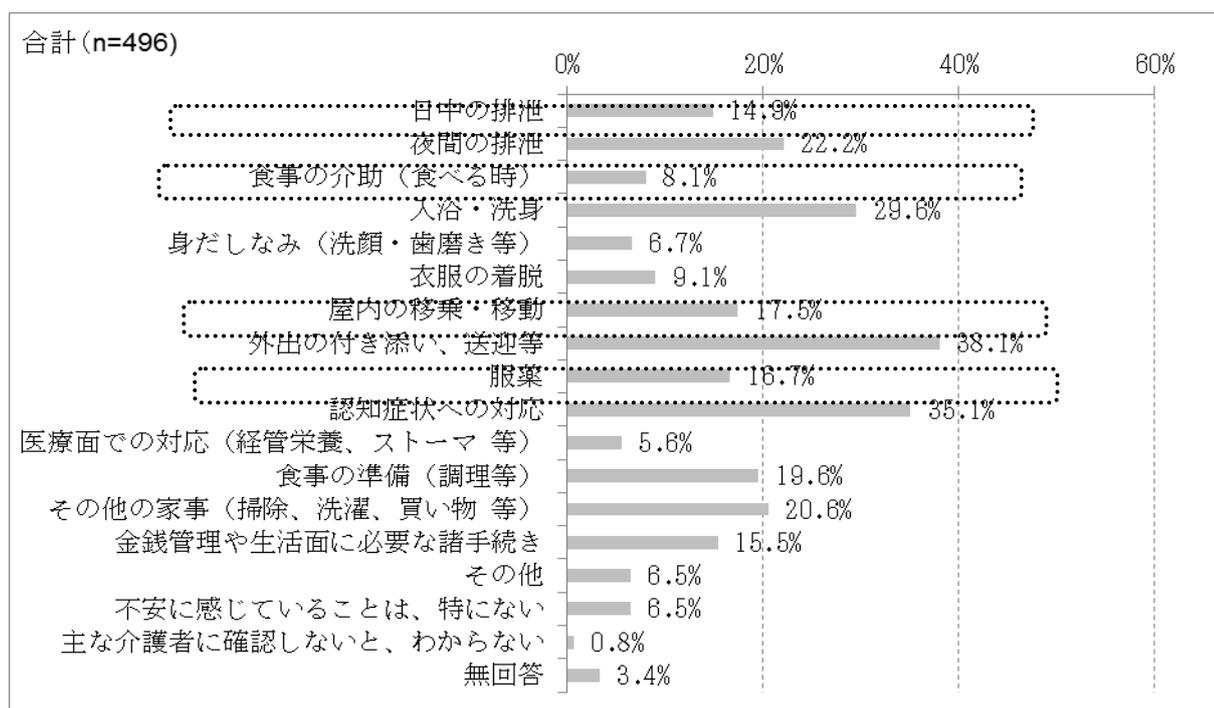


参考 全国人口10万人以上30万人未満の市町村集計

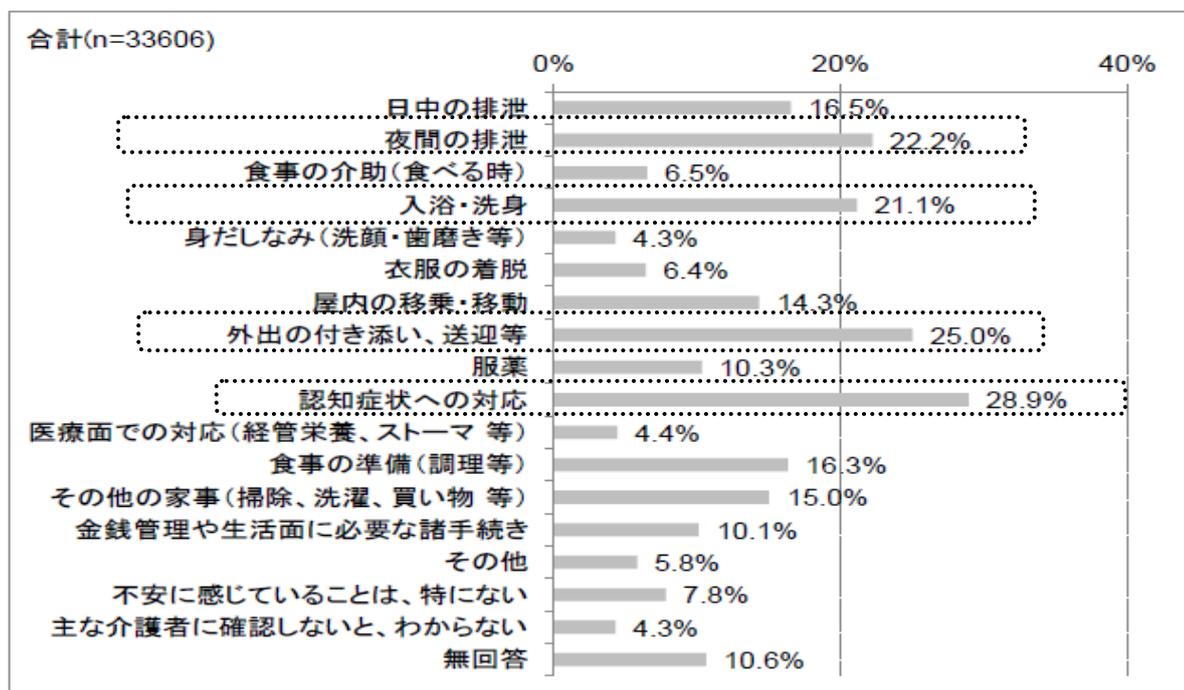


- 就労している介護者の約7割が、就労の継続について問題意識を持っていません。全国人口10万人以上30万人未満の市町村集計との比較では、5%ほど多くなっています。

⑪ 在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安を感じる介護（複数回答）



参考 全国人口10万人以上30万人未満の市町村集計



- 主な介護者が不安を感じる介護は、「外出への付き添い、送迎等」が38.1%で最も多くなっています。次いで「認知症状への対応」、「入浴・洗身」、「夜間の排泄」となっています。
- 全国人口10万人以上30万人未満の市町村集計と比較して、順番は異なりますが、主な介護者が不安を感じる項目は一致しています。